



REMATEC
GROUP

2017 CSR REPORT



Innovation for the Earth



REMATEC
Innovation for the Earth



リマテックグループの環境への
取り組みが業界トップランナーと
して環境大臣に認定されました



資源循環で、低炭素社会へ。
気候変動キャンペーン「Fun
to Share」に賛同しています



水無し印刷を
採用しています



～未来を予測する～

未来のため、
 今、私たちができることは何か？
 私たちが行動に移すべきことはなにか？
 未来を予測すれば、私たちの使命がわかってくる。
 リマテックグループは全社員で
 イノベーションに取り組めます。

Contents 2017

04 特集

- 04 | 特集1 日本国内の事業及びグループ企業のご紹介
リマテックグループの
グローバルネットワーク
- 06 | 特集2 これまでのイノベーションの歴史をご紹介
リマテックグループの
イノベーション
- 08 | 特集3 リマテックグループの年間実績についてご紹介
数字で見るCSR

10 理念・報告

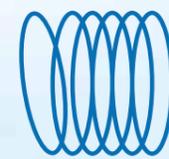
- 10 | 社会に貢献できる企業グループであるために
トップメッセージ
- 12 | 理念とビジョン
- 14 | 社会性報告
- 16 | 環境・安全報告

18 グループ企業紹介

- 18 | 2017年度各社トップから伝えたいメッセージ
各社トップメッセージ
- 20 | リマテック株式会社
- 22 | リマテック九州株式会社
- 24 | リマテック東北株式会社
- 26 | リマテックR&D株式会社
- 28 | RTT株式会社
- 30 | REMATEC & KSN Thailand Co., Ltd.
- 32 | 株式会社レックス

34 DATA・その他

- 34 | RF事業における
環境パフォーマンスデータ
- 35 | データ実績
- 36 | 環境・安全衛生活動報告データ
- 37 | 3カ年目標
- 38 | 第三者意見
- 38 | 第三者意見を受けて
- 39 | 企業情報



リマテックグループのロゴ

当グループのロゴマークは、一つひとつのサークルが小さな循環を意味し、そのサークルが連鎖することによって資源循環型社会が構築されていくことを表しています。当グループの提供する資源循環サービスの一つひとつが資源循環型社会構築に貢献していきたいという想いが込められています。当グループは確かな技術とノウハウ、これまで培ってきた経験と実績をベースに、よりいっそう顧客価値創造に取り組み、ビジネスパートナーとして皆様の企業価値向上に貢献し、ステークホルダーの皆さまと持続可能な社会づくりに邁進する所存です。

リマテックグループは、 持続可能な開発目標を支援しています

アイコンの説明

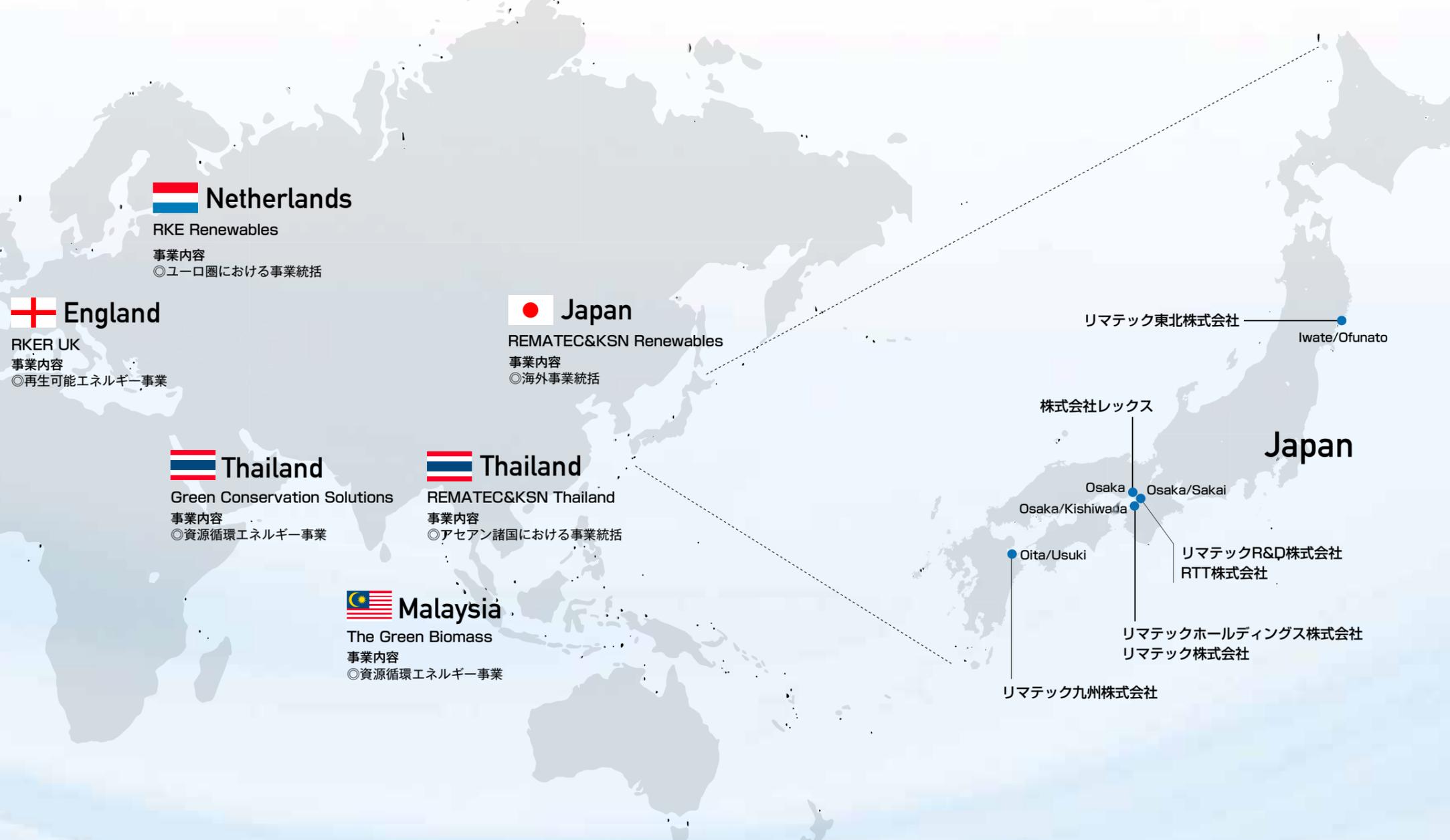
「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年9月に国連持続可能な開発サミットにおいて採択され「アジェンダ2030」に盛り込まれた“2030年までに人類が達成すべき17の目標（GOAL）と169のターゲット”です。

2016年から2030年まで、すべての国連加盟国において、官（政府）民（企業・市民）が連携して取り組むことを目標としています。なお、当グループの事業活動で関係している目標についてP14以降で紹介しています。

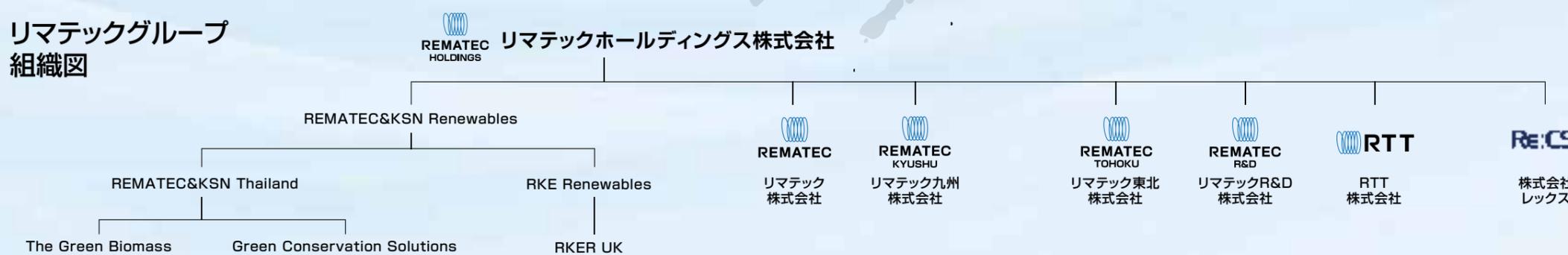


リマテックグループのグローバル ネットワーク

リマテックグループは、国内事業8拠点、
海外事業5拠点とグローバルに展開しています。



リマテックグループ 組織図



国内事業内容

RF事業



近隣工場などから受け入れた産業廃棄物をRF (Reclaiming Fuel/廃棄物を利用した再生燃料) に生まれ変わらせ、セメント工場に供給。CO₂削減など環境負荷低減に貢献し、近年はアジアへも技術支援をしています。

環境修復事業



東日本大震災や広島土砂災害など、自然災害で発生した大量の災害廃棄物を、リマテックグループの総合力で、運搬・分析・高精度選別・再資源化まで一貫した処理スキームを構築。地域住民の暮らしと環境を守る、復旧・復興支援事業を行っています。

ネットワーク・物流事業

廃棄物やRF燃料など、リマテックグループの資源循環ネットワークを担い、安全と品質をモットーに運搬・輸送業務を行っています。



バイオガス発電事業



有機性廃棄物を原料として、メタン発酵によってバイオガスを回収。電気や熱を創り出します。発電時に新たなCO₂を排出しない、含水率の高い有機物からでも効率的にエネルギーを生成できるなどさまざまなメリットがあります。

太陽光発電事業

CO₂排出量や化石燃料使用量の削減など、環境負荷低減のため熊本・鹿児島・岡山で太陽光発電事業を実施しています。



環境へのイノベーションを刻み続ける

瀬戸内直島出身で漁師を営んでいた創業者の故 田中忠明氏は、1970年代高度経済成長期に、魚が採れなくなってしまった大阪湾の汚れた海をきれいにしようと油の回収をはじめました。それが近畿環境興産（現リマテック）のはじまりです。今年で43年目を迎えました。さまざまなイノベーションを経て、現在のリマテックグループがあります。その歴史をご紹介します。

1996

韓国-PJ

韓国蔚山広域市において、大手石油精製工場のRFプラント建設、技術移転、および運転支援を実施。

1997

ナホトカ号-PJ

流出重油類ドラム缶
約5万本分
ナホトカ号事故に伴う
重油回収処理

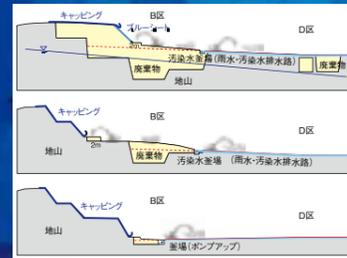


ロシア船籍タンカーが破断し、日本海沖に漂流・漂着した事故において、重油の回収・処理・処分を実施。日本海を覆った排出重油等の総回収量は、海水・ゴミ・油泥砂などを含め、約59,000 tにも及び、船舶輸送を含め、全国7件10箇所にて対応。原状回復と再資源化等処理・処分を実現。

2002

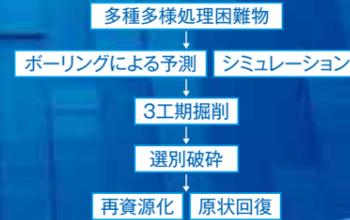
岩手青森県境-PJ

不法投棄量/約82万m³



岩手・青森県境不法投棄事業 原状回復事業における施工管理業務/選別・水処理プラント設計建設

算出したマトリックス・シミュレーションにて投棄・埋没された廃棄物の種類を予測し、選別フロー・選別処理基本システムを設計。作業におけるリスク及び、周辺へのリスクの最小化を図りながらの原状回復を約11年かけて終了。



2009

NaK-PJ

原子力関連施設解体
および"NaK"の適正処理



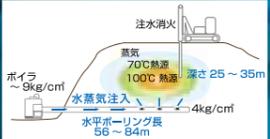
※NaK=金属ナトリウムカリウム合金、空気や水分にふれると爆発的に反応・炎上する取扱い困難物質

原子炉の冷却剤利用として研究されていたNaKの廃棄が課題となっており、処理方法を提案。安全対策・防災訓練をもとに、模擬作業演習を実施。低酸素作業室を自作し、オンサイト設置、NaKの安全な回収を実現。

2010

岐阜不法投棄 現状回復-PJ

不法投棄産業廃棄物を処理するにあたり、不法投棄廃棄物が発熱していることが判明。燃焼箇所を消化する注水消化の補助工法を提案し採用され原状回復を実施。



2011

東日本大震災復興-PJ (岩手県)

処理量
大船渡市 約84万 t
陸前高田市 約119万 t

海水をかぶったがれき（災害廃棄物）を処理するための二次選別プラント、除塩プラント、仮置場災害廃棄物を選別する津波堆積物を処理する分級プラントの設計・施工・支援を行う。また、二次選別作業における災害廃棄物処理（大船渡市約84万t、陸前高田市約119万t）、除塩事業による災害廃棄物処理（約93.5万t）、を実施。
※受入廃棄物対象エリア：大船渡市・陸前高田市・宮古市・山田町・大槌町

災害廃棄物 二次選別事業



津波堆積物 分級処理事業



2012

滋賀県大津市-PJ

ドラム缶約450本におよぶ不法投棄の支障除去業務及び再生燃料化・焼却などの処理を実施。

タイ王国

廃棄物の実態調査・廃棄物組成分析・湿式分級装置を用いたRDF (Refuse Derived Fuel: 廃棄物固形燃料) 実証試験開始

2014

広島災害復興-PJ

広島県広島市で発生した、豪雨土砂流による災害廃棄物の適正処理を実施。

2014

太陽光発電事業開始

これまでに培った発電実績データや効率的・安定的な発電に関する知見を十分に活用して、自然環境にやさしく、より安全に電気を生み出し社会に貢献します。

2015

バイオガス 発電プラント 「MFパワー1号」 運転開始

大阪府では初めてとなる、固定価格買取制度 (FIT) 適用のバイオガス発電施設として、発電事業をスタート。

※PJ: PROJECTの略称
※RMG: REMATEC GROUPの略称
※RF (Reclaiming Fuel)
事業: セメント焼成用補助燃料製造事業
※SCG: サイアムセメントグループ

REMATEC GROUP History

1974

近畿環境興産株式会社設立
海洋汚染の主原因である廃油・廃液を処理するべく「近畿環境興産株式会社 (のちのリマテック株式会社)」を設立。

1993

台湾RF-PJ
中華民国・高雄へ廃棄物処理再生技術 (RF燃料製造) を技術移転

1992

関西空港-PJ
関西国際空港建設に伴い空港島内で発生する建設廃棄物の処理マネジメント

1995

震災廃棄物処理-PJ
芦屋市、西宮市、宝塚市等の震災廃棄物マネジメント

2000

廃棄物再資源化-PJ
食中毒事件に伴う廃棄物処理のマネジメント

2001

橋本-PJ
橋本市ダイオキシン汚染現場の不法投棄廃棄物処理マネジメント

2006

北九州PCB-PJ
PCB汚染土壌処理施設運転管理業務

2007

BOFs大船渡-PJ
大船渡工場BOFs (Biomass and Oilysludge Fuel) 製造設備の設計、建設、運転支援

2007

洲本-PJ
亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用プロジェクト

2008

3S (トライエス)-PJ
家電メーカー新工場でのオンサイト廃棄物自家処理・再資源化システムの提案

2010

亜臨界プラント-PJ
亜臨界パイロットプラント 建設・運転支援

2010

リマテック株式会社に社名変更

2013

REMATEC&KSN Thailand (RKT) 海外現地法人設立

2014

二次電池材料開発-PJ
廃棄物由来の低コストな二次電池用原料の製造技術開発事業

2014

持株会社制に移行 リマテックグループへ

2015

Green Conservation Solutions (GCS) を設立 (SCGとRKTとの間での合弁会社)

数字で見るCSR

データの詳細についてはP35参照



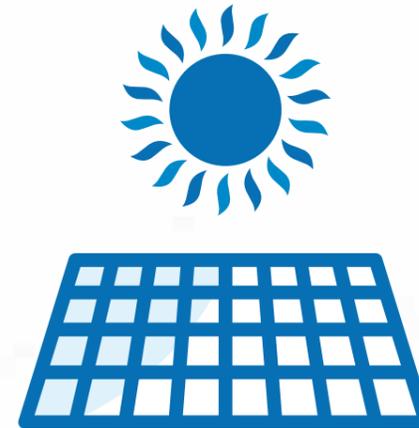
RF出荷量

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



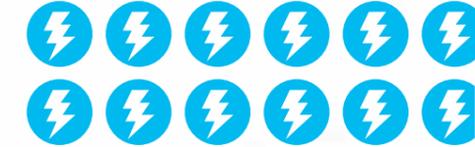
109,118 t/年

■2016年度目標値：98,000t/年



太陽光発電量

◎対象/熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所



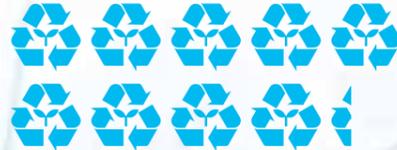
5,920千kWh/年

■2016年度目標値：5,425千kWh/年



リサイクル率

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

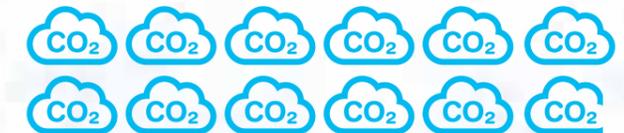


92.3%

■2016年度目標値：97.0%



CO₂削減量(太陽光発電)



2,986.6 t-CO₂/年

※太陽光発電のCO₂削減量については、太陽光発電協会「表示ガイドライン(平成28年度)」を参考に算出



RF1tあたりの電力消費量

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



25.4kWh/t

■2016年度目標値：27.4kWh/t



収集運搬車両の燃費

◎対象/リマテック九州株式会社、RTT株式会社



3.3km/L

■2016年度目標値：3.6km/L

RF出荷量

リマテックは設備トラブル等もありましたが、RFの出荷目標値を達成し、安定生産を行うことができました。また、リマテック九州は、2014年12月の本格稼働以降、安定的な生産を継続し、目標の出荷量を上回ることができました。日々の点検・メンテナンス強化で生産増を目指します。

リサイクル率

エコ・ファーストの約束で掲げているグループ目標のリサイクル率97%は未達となりました。リマテックは前年よりリサイクル率が上がりましたが、設備トラブルにより、目標値には至りませんでした。一方、リマテック九州は、例年通りの実績を出すことができ、目標値達成となりました。両社ともにリサイクル率の向上に向けて今後も取り組んでいきます。

RF1tあたりの電力消費量

リマテックは、大型設備導入の影響が続いており、電力消費量が増加しました。一方、リマテック九州は2014年12月から始めた24時間操業も安定し、効率化に努めたため、電力消費量は引き続き減少させることができました。しかし、両社とも課題が残るため、段階的に削減に取り組んでいきます。

太陽光発電量・CO₂削減量

2016年度は、全発電所が本格稼働となり、3ヵ年目標で掲げていた年度数値を上回ることができました。本年発電量5,920千kWh/年は、一般家庭の平均的な使用量(年間約4,936kWh^{※1})に換算すると約1,200世帯分に相当します。また、充分量の太陽光発電により、CO₂削減量も2,986.6t/年となり、低炭素社会の形成に貢献することができました。なお、これはスギの木約213本分のCO₂吸収量に相当します。^{※2}発電量は日照に大きく影響されるため、天気によって左右されることが多いです。少しでも安定的に発電できるよう、ストリング監視システムのデータ活用や発電所の不具合の早期発見及び対応により、今後も目標を達成できるよう努めます。

※1 日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編 2016年度参照
※2 環境省HPLしんきゅうさん参照(樹齢50年のスギ1本あたりCO₂吸収量約14kg/年)

収集運搬車両の燃費

2016年度はデジタルグラフの使用や添乗指導によるムリ・ムダ・ムラの排除に努めましたが、燃費の向上にはつながりませんでした。よって、燃費の目標値を達成することができませんでした。今後も継続して、エコドライブと安全運転を推進し、燃費の改善に努めます。



オランダ王国 RKE本社前にて

当グループでは「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること」をミッションとし、これまで日本国内でさまざまな環境分野における社会課題、特に廃棄物分野の課題解決に貢献してまいりました。しかしながら、SDGs やパリ協定などの近年の世界の動きは、個別課題への対応からより包括的な課題解決を指向するように変化しています。

私たちは事業活動を継続するにあたり、これらの世界の動きに対応していくためにはより長期的な視野に立つての目標設定と、達成に向けた継続的な活動が必要不可欠であると考えています。そこで当グループでは 2050 年を一つのターゲットとし、2050 年の社会に求められる技術やシステム、生活様式等について議論し、そこからバックキャストして今やるべきことをブレークダウンするいわゆるバックキャスト手法を経営の意思決

定に取り入れることを模索し始めています。

2050 年には化石燃料を使用した自動車は販売されておらず、ほぼ全てのエネルギーは再生可能エネルギーで賄われ、廃棄物という概念はなくなっているような社会になっているかもしれません。事実いくつかの先進国では近い将来ガソリンおよびディーゼル車の販売を禁止することをすでに決定しています。私たちは「わずか 30 年余りという短い期間での社会の大きな変化に対応し、引き続き私たちが社会に貢献できる企業グループであるために今何をすべきか？」を考え、さまざまな取り組みを実施しています。

その一つが海外事業です。海外事業をより加速するために、2017 年に海外事業中核会社として株式会社リマテック&KSN/リニューアブルズを設立し、今後当グループ内の海外事業に関す

資源循環インフラを担う 企業グループへ

リマテックホールディングス株式会社
代表取締役

田中 靖訓

るリソースを集約化していくこととしています。

近年は東南アジア、特にタイでの廃棄物リサイクル事業及びマレーシアにおける未利用バイオマスからのペレット燃料製造事業に注力してまいりました。タイの廃棄物選別 1 号プラントは 2017 年 4 月に竣工し、マレーシアのペレット製造プラントはパイロットプラントでの実証試験を終え商用 1 号プラントの建設が始まっています。今後、タイ、マレーシア共に 2 号、3 号プラントを建設し、引き続き積極的に両国の環境課題の解決に貢献してまいりたいと考えています。

一方で、新興国でのビジネスはプロジェクト開発に非常に時間がかかるうえに、新興国特有のリスク（許認可取得リスク、政治リスク等）もあります。そこで当グループの海外事業リスクを軽減すべく先進国でのビジネスにも注目し、適切なポートフォリオを構築することにも注力しています。特に欧州での再生可能エネルギービジネスに注目し、オランダに現地法人 RKE Renewables B.V. を設立し、イギリス、ドイツ、オランダでバイオガス発電事業を中心とした再生可能エネルギープロジェクトの開発に取り組んでいます。また、欧州はサーキュラーエコノミーへの取り組みなどで資源循環インフラの構築という点において世界をリードしており、注目すべき技術や制度、プロジェクトが

数多くあります。私たちは欧州での活動を通じて最先端の技術、制度を吸収し、今後のグループ全体の事業活動に取り入れていくこととしています。

世界は今変わり始めています。さまざまな国で事業にチャレンジすることでそのことをより強く実感することができます。そこで私たちはグループの中期経営ビジョンを「社会の資源循環インフラを担う企業グループへ」とし、これまでの廃棄物分野で培った経験を活かし、自らの得意とする分野において、変わっていく社会の中で今後も継続的に社会に貢献していきたいと考えています。

一方で社会が激しく変化している中においては、私たちも自らの強みや経験を最大限活かしながら変化していかなければなりません。自らの変化を実現していくため、今後もより積極的に他社と連携したオープンイノベーションを推進し、パートナーとの相互理解に努めながら、パートナーも含めた広義のリマテックグループの最適化を考慮した経営判断を実施してまいります。

2050 年にも当グループが社会から必要とされ、社会に貢献できるグループとして存続できるよう邁進する所存ですので、今後ともステークホルダーの皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理念とビジョン

リマテックグループの目指す姿を明確にするため、経営理念・経営ビジョンを定めています。理念・ビジョンを通じて、企業の価値を広め、理念を当グループの意思決定の支柱として今後も掲げていきます。理念をさらに大切に、環境分野での技術発展とオープンイノベーションの加速を目指し、環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出していきます。

Innovation for the Earth

グループ経営理念

技術 (Technology) をコアに、地球資源である物質 (Material) を無駄なく効率よく循環 (Recycling) させることによって、持続可能な社会の構築に貢献できるグループを目指す。

あるべき社会像の実現

- ◎すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- ◎「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ◎自然の摂理にかなった循環社会

「地域の課題解決」を支え、未来を創造する2軸の事業ドメイン

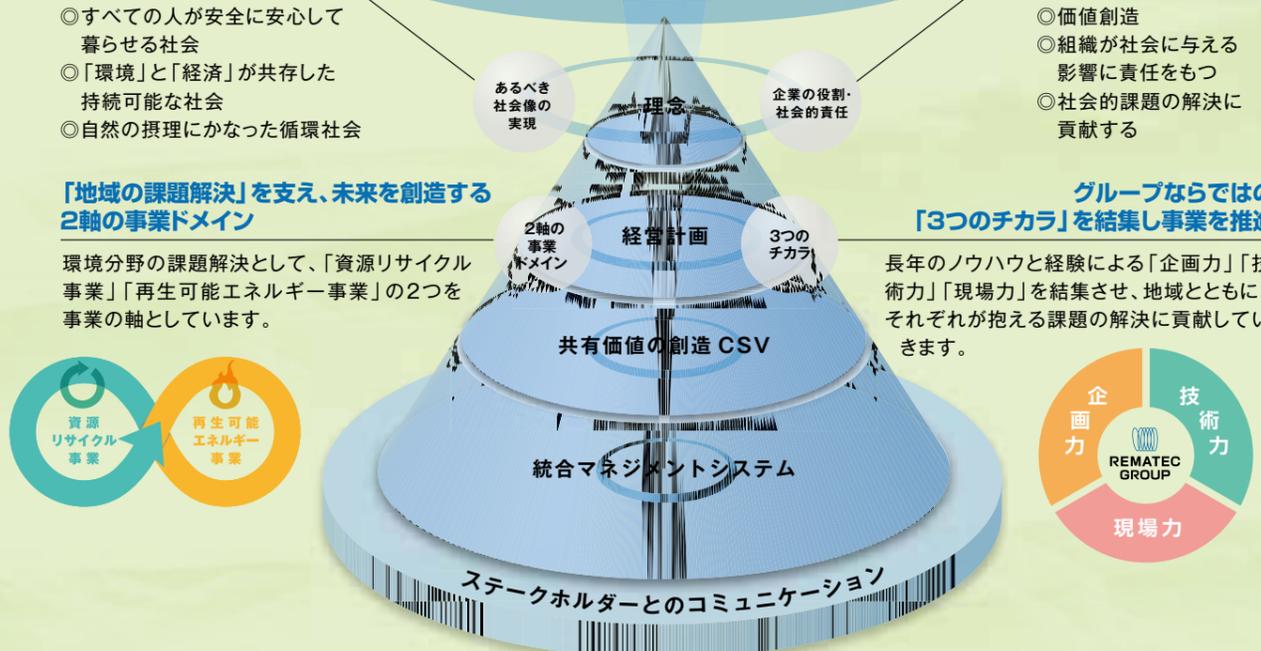
環境分野の課題解決として、「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つを事業の軸としています。

企業の役割・社会的責任

- ◎価値創造
- ◎組織が社会に与える影響に責任をもつ
- ◎社会的課題の解決に貢献する

グループならではの「3つのチカラ」を集結し事業を推進

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を結集させ、地域とともに、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。



コーポレートスローガンおよびCSRコンセプト

Innovation for the Earth

リマテックグループのミッション
環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること

事業を通してイノベーションを創出することが、社会の一員としてのリマテックグループの最大のミッション（役割）であり、責任であると考え、コーポレートスローガンである“ Innovation for the Earth ”をそのまま CSR コンセプトとしています。CSR 活動は生業を通じた事業活動と一体のものとして、推進することを目指しています。

コンプライアンスポリシー

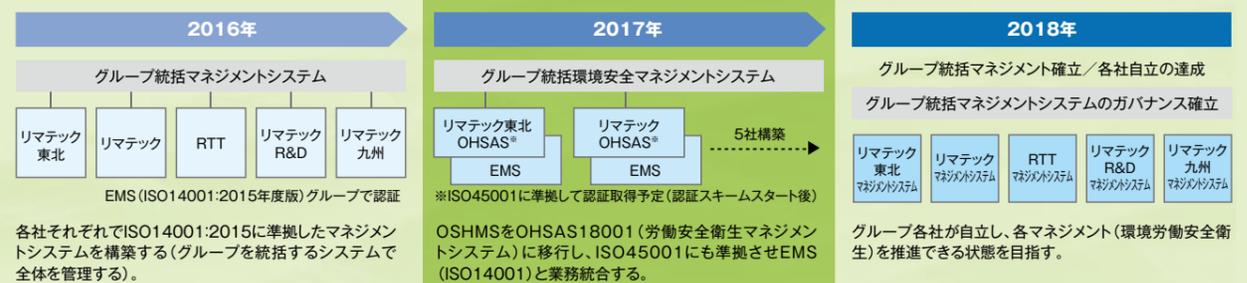
企業活動において、ステークホルダーとの関係は極めて重要かつ尊重すべきものであり、法令遵守は社会的責務であると認識しております。

法令や定款・社内規程はもとより、社会規範を遵守することを実現するためにコンプライアンスポリシーを制定し、役員および従業員の意識向上とコンプライアンス体制の整備を図ってまいります。



CSRマネジメントシステム／～各社のマネジメントシステム自立を目指す「3カ年計画」～

リマテックグループでは、グループ間の連携と各社の自立的取り組みを推進するため、3カ年計画でマネジメントシステム構築を進めています。



安全衛生理念

リマテックグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

環境理念

リマテックグループは、地球環境の保全が人間の存続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら、事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

理念とビジョン

企業理念をもとに、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。

2010年度より「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションの創出」を新生リマテックグループのミッションとし、「Innovation for the Earth」をコーポレートスローガンとして掲げました。

中長期事業コンセプト

中長期事業コンセプトとして「資源循環インフラを担う企業グループへ」と策定しました。実現に向け、基盤事業である「資源リサイクル事業」と「再生可能エネルギー事業」で培った技術やノウハウ、3つのチカラ（「企画力」「技術力」「現場力」）を活かし、社会インフラの整備や未利用資源の活用を行い、事業開発およびそれらの事業投資など、他社と連携したオーブ

ンイノベーションを推進していきます。

理念に基づく事業を継続的に発展させることで安定収益を確保し、そして持続可能な社会の構築に貢献できると確信して、当グループに課せられた社会的な責任を果たしてまいります。

統合マネジメントシステム

リマテックグループでは、「ビジネス」「環境」「労働安全衛生」の3つのマネジメントシステムを統合させ、「3つの視点」で日々の事業活動および課題解決に取り組んでまいりましたが、さらなる環境・安全強化のため、グループ全体を新しい国際規格に準拠させ、労災および環境事故を防止し、事業リスクに対する取り組みを新業務として加えました。

2016年度は、これまで大阪・九州拠点で運用してきたEMS（環境マネジメント）を再構築するとともに、グループ全体に拡大させてISOの要求事項改訂に適合する統合型マネジメントシ

ステムの構築に取り組みました。各社が独自で運用管理できることを目指し、グループ内部監査委員の人材育成など全社でマネジメントシステム教育を行い、2016年11月にはISO14001:2015 (JIS Q 14001:2015)の適合組織として認証を取得しました。

2017年度はグループ全体を国際規格に準拠させ、労災及び環境事故を防止するためにリスクマネジメントを計画的に推進し、OHSAS18001:2007とISO14001:2015の統合システムでの認証を目標に日々取り組みました。（2017年12月認証取得予定）統合した業務プロセスに対し、一から審査を受け直しました。OHSASに関しては、来年3月発行予定のISO45001に準拠して構築しました。

今後は、グループ各社でそれぞれが独立したマネジメントシステムを構築し、グループ全体を統括するシステムを稼働させ、更なるガバナンスの強化を図ります。



リマテックグループでは、グループ会社の拠点が国内・海外のさまざまな地域に広がっており、各事業がそれぞれの地域に根差した活動を展開しています。そして、地域社会から世界へと共生の輪がさらに広がるよう、グループ総力をあげて取り組んでいます。

また、幅広いステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切に、より良い関係を構築し、そして信頼にお応えしたいと考えています。

ステークホルダーとの関わり合い



エコ・ファースト in 関西
情報交換会



大分県異業種連携企業会(豊信会)
定例会での施設見学



オランダTwente大学の
学生が来社

製品向上に向けた取り組み



RF混合実験の様子



混合後の製品サンプル

社会貢献



エコ・ファースト サスティナブルカフェ in 関西
関西のエコ・ファースト企業と大学生 50 名ほどが参加され、活動報告企業紹介分科会や「未来の子供たちにどのような日本を残していくか」をテーマとした活動報告ディスカッションを行いました。

ステークホルダーとの関わり合い

私たちは、社会から必要とされる企業グループであり続けるため、ステークホルダーの声や期待・ニーズを理解し、製品・サービスの品質向上に活かしていくことが重要だと考えています。その一環として、2016年度は大分県異業種連携企業会(豊信会)の定例会において、工場見学会を実施しました。また、「エコ・ファースト in 関西」第15回情報交換会では、当グループの「エコ・ファーストの約束」取り組み事例紹介やバイオガス発電プラントの工場見学を行いました。オランダからは Twente 大学の学生と教授計 21 名が、日本における先進的な環境技術や文化に接するツアーとしてリマテック R&D に来社しました。日本における先進的な環境技術や環境問題、当グループの事業内容について熱心に耳を傾けていました。

製品向上に向けた取り組み

当グループの製品である RF 燃料は、さまざまな廃棄物を一定の配合比率で独自の混合方法によって製造しています。当グループでは、RF 燃料製造コストのさらなる低減化を目指し、廃棄物および中間製品の性状にあわせた混合方法、混合条件について検討を行っています。受入れ廃棄物の変動だけでなく気温変動も製品品質に影響を与えます。製造コスト低減と品質安定性を両立できる技術について検討を進めています。

社会貢献

当グループでは、子どもたちや学生と積極的に交流し、未来を担う子どもたちとともに、環境に貢献していきたいと考えています。その一環として、若年層(大学生)視点からの環境問題の探索・把握を目的とした、「エコ・ファースト サスティナブルカフェ in 関西」の参加や、「魚庭(なにわ)の海再生プロジ

メンタルヘルス&ダイバーシティ

従業員一人ひとりが業務効率化と生産性を強く意識し、限られた時間の中で最大の成果を発揮できるよう、総労働時間の削減・年次有給休暇の取得率向上などの職場環境を整えていきます。

リマテックグループでは、有効期限が消滅した年次有給休暇を、本人の私傷病、家族の介護のために利用できる繰越年次有給休暇制度を設けるなど、社員の福利厚生の上に努め、仕事と家庭生活の両立のためにさまざまな支援制度を提供しています。

リマテックグループにおける 2016 年度の年次有給休暇取得率は 62.1% でした。

(2016年度日本における年次有給休暇の取得率48.7% 厚生労働省・平成28年就業条件総合調査結果より)

有給休暇取得率

62.1%

インターンシップ受け入れ

インターンシップの声

4月に大阪府立大学の先生とリマテック R&D に初めて挨拶に来たとき、1階の実験室を見て、とても心配になりました。なぜなら、理科の中で一番、化学が苦手だからです。また私の専門は自動車工学で、自分の専門とリサイクル事業が異なっており、理解できるかとても心配でした。

実際にインターンシップに参加すると、リマテックグループの社員の方は分かりやすく説明してくれて、化学について理解でき、初めにあった不安がなくなりました。

講義でメタン発酵の原理を学び、現場作業で工程を理解することができ、改善プロジェクトに関しても深く学ぶことができました。

リマテックグループの廃棄物をリサイクルする技術は素晴らしく、環境に良い技術だと思いました。今回学んだ技術や考え方を取り入れて私はタイ王国の社会に貢献できる人になりたいです。



泰日工業大学 留学生
ワラセト・ポンブンサンティ
Woraset Pongpunsanti



エクト 2016 年度成果報告会兼実験施設見学会」の参加など、地域社会と関わりながら企業活動と環境活動の両立を行い、実現したい未来に向けて活動を行ってまいります。

従業員への責任

昨今、企業を取り巻く経営環境の急激な変化に伴い、組織や制度といったシステムが大きく変革している中、安全衛生はもとよりメンタルヘルス対策やダイバーシティに配慮する事が最も重要だと認識しています。当グループでは、従業員の健康・安全の確保が、企業の持続的な発展にとって重要な課題であると認識しています。このような課題認識のもと、良好な職場環境の維持や、従業員の安全確保、健康維持・増進支援などを積極的にを行い、多様な人材がいきいきと働くことのできる環境づくりに継続的に取り組みます。

インターンシップ受け入れ

国内市場の縮小により、海外事業の拡大を図る日本企業は近年増加していますが、特に中堅・中小企業においては、海外展開を担う「グローバル人材」の不足が課題となっています。当グループでは、海外展開や新たな視点によるイノベーションを創出するには、グローバル人材の活用が企業の競争力強化に資すると考えています。

2016年4月、泰日工業大学留学生支援事業として、タイ王国からの留学生を受入れ、約5ヵ月間にわたりインターンシップを行いました。今後も、異文化コミュニケーション経験による意識改革や海外ビジネスの拡大・新たな展開に向けた知見構築を目指し、グローバル人材の育成と国際ビジネスの推進に貢献していきます。



リマテックグループでは環境理念のもと、事業活動と環境の関係を意識して、常にどのように行動するべきかを考え、環境活動に取り組んでいます。グループ全体でできることを一つひとつ確実に実行することで大きな効果が生まれています。地球環境保全に積極的に貢献し、地域社会の多くの人々から尊敬される企業を目指します。

2017年度リメンバーデーの様子

平成9年7月28日に起きた火災爆発事故から20年が経過しました。その当時の教訓を風化させないため、今年もリマテックグループ各社の関係者が集まり「リメンバーデー 7.28」をリマテック九州にて開催しました。午後からの研修では、各社が抱える危険因子について、危険源の網羅的抽出を行い、リスクアセスメントによる安全対策の必要性を正確に評価するといった、事故処理から事故予防へシフトする教育を行いました。



安全への取り組み

処理プラントの解体・整備～薬剤の回収&再利用～

2011年からの災害廃棄物処理事業終了後の処理プラントの解体・整備等で発生した産業廃棄物中に薬剤が残存していました。作業安全性確保の観点から、解体前に専門知識を有するスタッフによる事前調査（薬剤の種類、再利用の可能性、処理方法、リスクアセスメント等）を行い、解体にかかる手順を策定しました。実際の薬剤の回収においても、安全、スピーディー、低コストで行い、無事にプラントの解体を実施し、薬剤の有効再利用ができました。



無災害記録で表彰状を受領

想定訓練・消火訓練を実施



地球環境保全につながる森林づくり



生物多様性保全ボランティア活動



環境・安全への取り組みの歴史

私たちリマテックグループは、創業以来、環境分野におけるさまざまな社会的課題の解決に取り組んでまいりました。当社グループのCSR活動について、すべてのステークホルダーの皆様にご報告することを目的に2000年より環境報告書を発刊し、2009年度よりCSRレポートとして情報を開示しています。

1999年	大阪工場 ISO14001 認証取得
2000年	九州工場 ISO14001 取得
2007年	堺SC工場 ISO14001 認証取得
2008年	エコ・ファースト企業 認定
2009年	OSHMS 認証取得 (大阪・堺SC・九州工場)
2016年	リマテックグループISO14001:2015年度版認証取得
2017年	ISO14001:BS-OHSAS18001 認証取得予定 (2017年12月)

地球環境保全につながるボランティア活動

大分県では、豊かな森林と木のある暮らしを次世代に引き継ぐため、森林環境税を活用して、「県民の生活を守り、地球

環境保全につながる森林づくり」に取り組んでいます。

当グループではこれに賛同し、「ふれあい共生の森」と命名した森林の手入れに参加し、森林づくりを進めています。

生物多様性保全ボランティア活動

2017年9月には、琵琶湖に繁殖する外来魚駆除を目的としたボランティアに参加しました。関西に本社を置くエコ・ファースト認定企業10社によるボランティア活動で、今回で5回目の試みとなりました。釣果を競って楽しみながらブルーギルやブラックバスなど948匹、計23.4kgの外来魚を釣りあげました。なお、釣りあげた外来魚は、障害者福祉施設にて魚粉に加工した後、堆肥などに有効活用されます。

安全への取り組み

リマテックグループは、安全衛生理念のもと、事故再発防止強化に取り組んでいます。グループ内で操業中に発生した事故

エコ・ファーストの約束

私たちリマテックグループは、産業廃棄物のリサイクルを行う企業としての社会的責任を踏まえ、法順守を徹底するとともに、環境負荷を継続的に改善する活動を通じ積極的に社会貢献するため、以下の取り組みを進めてまいります。



約束1 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します

- ※適用 / リマテック株式会社、リマテック九州株式会社
- 排出先から受け入れた産業廃棄物のリサイクル率97%以上を維持します。
- 再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究を進め、循環型社会の促進に貢献します。
- 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。

約束2 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します

- ※適用 / リマテック株式会社、リマテック九州株式会社
- 通常は焼却・埋立といった処理が行われる廃棄物も含めて、さまざまな工場等から排出される多種多様な産業廃棄物を原料とし、独自の技術により、セメント工場等で利用する再生燃料(RF燃料)の出荷を、2019年まで現状より5%アップします。これにより、工場で行われる石炭等の化石燃料の使用量を抑えることを通じ、温室効果ガスの削減が図られ、低炭素社会の形成に貢献します。

約束3 土壌・水質を汚染する廃棄物を有効活用し負荷低減します

- ※適用 / リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社
- 主に、廃棄物由来のバイオマスを利用したエネルギー回収技術の開発に向けた取り組みを推進します。

約束4 社内外における環境教育を積極的に実施します

- ※適用 / リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社
- リマテックみらい塾など、当社独自の環境教育を積極的に実施することで、環境分野における社会的課題に対応する人材を育成します。
- 廃棄物のリサイクルについて理解を深めるために、工場見学を定期的に企画・実施します。

2016年度エコ・ファースト実績

	約束内容	項目	目標	2016年度実績
1	循環型社会形成の推進	産業廃棄物のリサイクル率	97%を維持	リマテック 85.2% リマテック九州 99.3% グループ合計 92.3%
		再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究	—	廃棄物再資源化に関する研究開発活動の実施
2	地球温暖化防止の推進	再生燃料(RF燃料)出荷量	2019年度まで現状より5%アップ	リマテック 54,654t リマテック九州 54,464t グループ合計 109,118t
3	廃棄物の有効活用	バイオマスを利用したエネルギー回収技術の開発に向けた取り組み	—	食品系廃棄物等を活用したバイオガス発電実施
4	環境教育の実施	独自の環境教育の実施	—	新マネジメントシステムの導入、当社独自の社内環境教育を実施
		工場見学を定期的に企画・実施	—	各社工場・プラントにて、国内外からの見学者対応を実施

については、事故発生後即時、安全衛生環境委員会事務局に通報後、事故報告書をグループ掲示板に掲示しています。再発防止検討書・フォローアップ報告書をグループ内で共有することにより、再発防止の観点から有効な対応策を検討し、再発防止に努めています。

想定訓練・消火訓練は各社年2回実施しており、2016年12月には所轄消防署への通報訓練、消火栓や消火器による消火訓練を実施しました。訓練の結果、手順の変更や不具合点も見つかり、マニュアルの改定につなげるなど、さらなる安全強化に取り組んでおります。このような一つひとつの積み重ねにより、この度太平洋セメント株式会社大分工場様より、27ヵ年無災害表彰をいただきました。ひとえに太平洋セメント様ならびに安全衛生協会の皆様のご支援及びご指導によるものと感謝し、これからも社員一人ひとりが安全第一を合言葉に無災害記

録の更新を目指していきます。

エコ・ファーストの約束

リマテックホールディングス株式会社は、2008年に、環境省から「業界のトップランナー」として「エコ・ファーストの約束」の認定を受け、その取り組みを推進してまいりました。

この取り組みの進捗状況結果については、CSRレポートやホームページで定期的に公表するとともに、環境省への報告を行っております。

今後も環境省とお約束した先進的な取り組みを確実に実行するとともに環境省のご指導を得ながら、エコ・ファースト企業間の連携を図り、地球温暖化対策など我が国の地球環境保全の取り組みのさらなる前進に寄与してまいります。

各社トップメッセージ



REMATEC

リマテック株式会社 代表取締役社長 藪 哲之

リマテックは、1983年プラント建設を機に廃棄物を「資源」と捉え、独自の技術革新を重ねながら、セメント会社様向けのRF燃料として供給してまいりました。経営理念である「技術をコアに地球資源である物質を無駄なく効率よく循環させることによって、持続可能な社会の構築に貢献できるグループを目指す」という考えを、より具現化し、事業活動を進めております。

現在、再資源化事業は当社の核となっておりますが、災害復興支援事業・バイオマス発電事業にも新しく取り組み、経験・実績を積み重ねていっております。

「再資源化～資源循環の促進」これまでの経験やノウハウを、より一層向上させ、社会的課題を解決できる、また変化に柔軟に対応できる企業を目指し、これからも社会に貢献していきたいと考えております。



REMATEC R&D

リマテックR&D株式会社 代表取締役社長 伊藤 大輔

今後さらに業務範囲を拡大し「資源循環インフラ」を担うためには、自らの専門性を高めること、専門分野の異なるパートナー企業との協業を進めていくことが必要となります。特に、国や地域ごとに多様化する環境課題の解決には、これまでの経験を踏まえ、専門家として、ステークホルダーの皆様と共有価値を創造し強固な信頼関係を構築することが不可欠です。そのために当社では、「社会の変化に応じて、覚悟を持って変わらなければ明るい未来はない」という強い決意をもって課題に取り組み、その内容や結果については、積極的に説明責任を果たすとともに、忌憚のないアドバイスをいただく機会を設けています。技術の根拠をベースとした新鮮で自由な発想を大切に、環境課題に向き合い、解決に向けたチャレンジを継続し、社会に貢献していきたいと考えています。



REMATEC KYUSHU

リマテック九州株式会社 代表取締役社長 矢野 真一郎

当社では「Must Change」をキーワードに、取り巻く環境変化に即応すべく、会社力を高める活動を現在展開中です。

一点目は、生産技術力アップによる中間処理品質の向上。二点目は、セメント社向け再生燃料の安定生産と安定供給確保。三点目は、次世代を睨んだ新規事業開発へのチャレンジと、地域活性化への参画です。

また、メンテナンス事業では、工事から廃棄物回収までの一貫処理を提案し、顧客先での産廃処理負担の軽減に取り組んでいます。

最後に、社会的に課題とされているBCP（緊急時企業存続計画）については、今後具現化し、もしもの際には企業としての社会的使命を果たせる体制整備を構築することで、全てのステークホルダーの皆様の付託に応えられる、会社づくりに取り組んでまいります。



RTT株式会社

代表取締役社長 久永 勇

2050年の社会に求められるシステムの一つとして、CO₂フリー水素のエネルギー活用が挙げられます。私たちは、水素サプライチェーンの構築に必要な、低コストかつ低環境負荷な水素輸送の実現に向けた取り組みを開始しました。これまでの廃棄物収集運搬事業で培った稼働率や回転率の向上ノウハウ、動脈・静脈物流会社との信頼関係を最大限に活かし、国内のエンドユーザーに届けるラストワンマイルを事業領域とすることを考えています。また、ドライバーや運搬車両不足の問題解決に向けて、所有から共有のビジネスモデルを生み出します。水素社会の未来を予測するには、ピークオイルの時期が不確実であること等、常に困難が伴います。しかし、私たちは未来が何をもちたとしてもおそれない、変革とオープンな心を持ち続け、新しい産業革命を原動力とした日本の産業の発展、循環型経済の実現、資源循環インフラの構築に貢献してまいります。



REMATEC TOHOKU

リマテック東北株式会社 取締役 野村 朋員

リマテック東北として中期経営計画3カ年の最終年度を迎え、次の2018年～2020年の計画立案準備に入っております。この3カ年では、企業として持続可能であるための基盤整備として、会社の仕組みづくり、それを動かす人財の育成に注力してまいりました。現時点では、ありがたい姿には到達していませんが、着実に前進していると実感しております。

また、新規事業活動として取り組みを進めておりました地域再生可能エネルギー事業は、それ単体での事業化が厳しいという結論から、複合事業での立上げを再検討しているところです。他にも、資源循環の新たな価値創造を目指した取り組みも開始しており、新規事業活動については、ある一定の業種では括れない領域となり、地域のあらゆる業種の方々との協創事業として、東北から新たな事業を発信できるよう努めてまいります。



株式会社レックス

代表取締役社長 塩見 頼彦

レックスはリマテックを含む3社の営業部を統合して創設し3期目を迎えました。私たちはこれまで培ったネットワークを駆使し、レックスグループを中心とした既存インフラの活用、新たな地域循環圏の構築、サプライチェーン管理を一体的に行うことで、合理的で効率的な資源循環フローを提供いたします。日本の都市部における循環構造が確立されていない現状において、我々の成すべき役割は大きく、最適な資源循環インフラを形成することで社会貢献すると共に、社会に不可欠な存在として持続的発展を遂げられるものと確信しております。

何より社員が夢と誇りを持てる会社づくりを念頭に、社会と全てのステークホルダーの皆様から「信頼」を賜れるよう、社名の由来でもありますコーポレートスローガン「Re-Creation for Sustainable Society（持続可能な社会に向けた再創造）」の実現を目指して更なる事業活動に邁進してまいります。



リマテック株式会社

- 産業廃棄物処理事業
- 再生燃料(RF)製造事業
- バイオガス発電事業
- 環境修復事業



リサイクル・再資源化技術を追求し持続可能な社会とすべての関係者様に貢献できるように一層の努力を続けます。

リマテックは、「産業廃棄物再資源化」という中でさまざまな環境分野における社会的課題に積極的に取り組んでおり、多様化する産業廃棄物に対応できる再資源化技術を開発してきました。また復旧・復興支援、環境修復事業の分野でも多くの実績があり、その経験を活かしてグループ会社とともに次の世代に引き継ぐ地球環境を創造する企業を目指していきます。

RF燃料製造課程における環境負荷低減活動

- ①臭気測定器による定時測定
 - ②車両荷降ろし時の臭気対策[車両ポンプからの排ガスを脱臭設備で吸引]
- 上記の活動により環境負荷低減に努めております。



①臭気測定器による定時測定

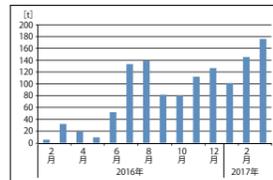


②車両荷降ろし時臭気対策

バイオガス発電プラント

発酵によるメタンガスと二酸化炭素の混合ガス回収量の安定に伴い、有機性廃棄物（汚泥など）の受入量が増え資源循環に貢献しております。

バイオガス発電プラントでは緊急事態の対応として、万一漏洩が発生した場合、側溝からの流出防止対策として土嚢を設置するなど漏洩想定訓練を実施しております。



廃棄物入荷量



側溝からの流出防止対策

熊本プロジェクト

熊本プロジェクトは、2016年4月に発生した熊本地震による災害廃棄物83万tを処理する業務です。震災廃棄物は、5ヵ所の仮置場で受入れ、分別・破砕等の中間処理を実施しています。この業務にリマテックより、2018年3月末日処理完了を目指し、震災廃棄物処理業務の経験者5名が株式会社鴻池組に出向し、熊本の復興事業に貢献しております。



一歩ずつ前へ！熊本



木材破砕処理風景

社員の声

製造部 係長 小林 慎吾

勤続20年目を迎えた本年度は、バイオガス発電事業を担当しております。従来とは異なる業務で困惑することもあります。今年のキーワードである「熱」の熱意、熱心を心がけて業務を行っています。バイオガス発電は、廃棄物等の発酵により発生した可燃性ガスを燃焼することで発電を行っており、地域の資源循環に貢献しております。

設備は、さまざまな安全監視システムにより安全性を確保していますが、目に見えない危険の兆候を見つけるのは作業です。私たちは、スキルを高め事故の起きない、地域の皆様から信頼される会社を目指して努力していきます。



2017 TOPICS

◎電力削減の取り組み

構内設備（攪拌機）の常時稼働による電力消費が課題であったため、2016年度は休憩時間には手動でOFFにすることから始め、前年対比19,510kwh(2%)削減ができました。CO₂換算にすると9.9tの削減となります。

2017年度は制御システムにプログラムの追加を行い、攪拌機の自動間欠運転が可能となったことから、さらなる削減効果が得られる計画です。



攪拌機



制御プログラムの追加



避難場所へ徒歩で移動

◎BCPの取り組み

当社は、再資源化事業を中断させるさまざまな脅威のうち自然災害への緊急事態発生を想定し、対応手順を事前に定め事業継続に影響を及ぼす事態に備えた体制づくりを進めています。活動の一環として、従業員の避難訓練を実施し、併せて徒歩を想定した避難場所までの経路確認と所要時間等のデータ取りを行いました。

◎統合マネジメントシステムへの取り組み

2016年度は、JIS Q 14001:ISO14001:2015への更新を行い、日本検査キューエイによる更新審査を受審し認証登録を完了しました。2016年度下期からは、ISO45001発効を踏まえて、JISHA方式によるOSHMSからBS-OHSAS18001:2007への切換えと統合マネジメントシステムに移行する準備を進めてきました。組織全体のリスクアセスメント抽出方法や帳票・記録類の見直しおよび改訂を行い、安全衛生環境活動のより高い水準を計画に設定し、2017年よりシステム構築に取り組んでいます。下期には統合（ISO14001・BS-OHSAS18001）マネジメントシステム審査を受審し認証登録を完了する予定です。



◎全国産業廃棄物連合会 優良従事者表彰

2017年6月16日に開催されました公益社団法人全国産業廃棄物連合会第7回定時総会において、同会より「優良従事者表彰」を賜りました。優良従事者は、勤務年数や、勤務成績が優秀で他の模範となる者、企業の功績度に優れた者などの規定が定められています。



ステークホルダーの声



鴻池組・前田産業・前田環境クリーン・九州産交運輸・味岡建設 連合体 所長

角矢 佳浩 氏

平成28年11月より熊本市発注の「熊本地震に伴う被災家屋解体廃棄物等処理業務委託」に携わっています。83万tの震災廃棄物処理を平成30年3月末日までに完了する業務です。今回の業務を現在のところ順調に推移できた要因は、リマテック株式会社を筆頭にグループ会社の協力を得、立ち上げ時より圧倒的な企画力及び技術力を存分に発揮していただいたことに尽きると感謝しています。また、5人もの震災廃棄物処理業務の経験者を出向させていただき、熊本市内に5ヶ所ある仮置場に1名ずつ配属し主要業務を担ってもらっています。

弊社とも長年にわたり環境関連業務と一緒に努力してきたところですが、リマテック社の現場力といえます。各社員さんの取り組む姿勢には、ゼネコンにない発想と企画力があり羨ましく思う部分が多々あります。今回の熊本の業務も半分を超え、リマテック社とともに無事業務を終え地元で感謝されるよう頑張りたいと考えています。

リマテックグループ全体が今以上の現場力を持って、ますます発展されますことを期待しております。



リマテック九州株式会社

- 産業廃棄物処理事業
- 再生燃料(RF)製造事業
- 産業廃棄物収集運搬業
- 環境修復事業
- 設備メンテナンス事業



感謝・誠実・進化

リマテック九州は、「資源リサイクル事業」を基軸とし、排出事業者様より処理を依頼された産業廃棄物を原料として、当社独自の中間処理技術により、セメント会社向けの再生燃料を生産しています。生産設備については、危険物製造所として認可されており、より高度な安全設備を備えています。現在、地域との共存共栄の精神のもと、「事故・災害ゼロの職場」を目指し、全てのステークホルダーの皆様へ信頼される企業になれるよう取り組んでいます。

安全

リスクアセスメント・パトロールによるリスクの排除

◎高所作業における安全設備(セーフティーブロック)改善

工場内の高所作業において、改善を求める要望等があったため実際に作業を行う課員からの意見の吸い上げや製造メーカーとの協議を重ねて基本設計から見直し、より安全な作業の確保を図りました。



◎工場出入口の滑り止め対策

工場への出入口付近の坂道は、冬場の凍結時や雨天の際に車両がスリップすることがありました。運輸課員からの改善要望を受け、坂道の路面に滑り止め対策をしました。



環境・品質

水銀測定装置の導入

水俣条約による水銀の適正管理と、排出量の削減を目指す国際的な動きを受け、大気汚染防止法の一部が2018年4月に改正されます。この法改正に伴い、当社の製品(RF燃料)を安心して使っていただくため、水銀分析装置を2017年3月に導入しました。原料となる受入れ廃棄物の水銀含有量の把握や、配合割合の調整を行うことで、水銀濃度の管理体制を構築しました。環境面・品質面がより強化され、関係先企業からも好評をいただいています。



日本インスツルメンツ(株)製 加熱酸化水銀測定装置 MA-3000

2017 TOPICS

地域

地域活動

◎「第三回ふるさと祭り」への参加

2017年8月14日、都松地区振興協議会による「第三回ふるさと祭り」が開催され、当社は環境部会の一員として、また協賛企業として参加しました。当日は雨が予想されたため、メイン会場を体育館内に移し、当社提供の焼肉会場は屋外にテントを建て、準備をしていました。本番では雨もなく、地区の方を含む総勢360名の方が会場に集い、盛大な祭りとなりました。毎年好評の焼肉コーナーは、大盛況の中で無事に終える事ができました。地区の皆様をおもてなしをする中で、普段できないコミュニケーションを深める事ができ、充実した一日となりました。今後も地域との共生の精神のもと、地域の行事に積極的に参加し、明るく楽しい地域づくりに努めてまいります。



◎第17回 リマテック杯ふれあいグラウンドゴルフ大会の開催

2017年4月13日、恒例のグラウンドゴルフ大会を、桜満開の白杵市野津町吉四六ランドで開催しました。大会当日は天候にも恵まれ、津久見市・白杵市・野津町のグラウンドゴルフ協会の皆様、総勢224名が参加し、白杵市中野市長の挨拶の後、盛大にスタートしました。慣れないグラウンドでのボールコントロールに一喜一憂しながら、楽しくコミュニケーションを交わす事ができました。

新入社員の声

製造課 製造係 安達 康平

1日でも早く信頼される社員へ

地元の高校を卒業後、リマテック九州に入社して半年が経過しました。入社当初は、初めて聞く言葉や設備に戸惑いの連続でしたが、先輩方が一緒に作業を行いながら教えて下さったおかげで、日々理解が深まっています。普段の業務は、工場に搬入された廃棄物の受入れや、廃棄物貯蔵タンク移送前の分析用サンプル採取などを行っています。廃棄物の受入れではフォークリフトの運転免許を取得し、ドラム缶の整理を任せてもらえるようになりました。一人の社会人として、色々な資格を取得する中で、「安全」に対し、重い責務があることを実感しています。今後の目標は、1日でも早く製造課の仕事覚え、周りから信頼される社員になることです。そのために、疑問点はその場で解決し、日々成長できるよう業務習熟に励みます。



地域の声

地場企業として地域の雇用拡大に

昨年度より、都松地区の区長会長に就任し、地区振興協議会の役員として会の運営に参加し、地区の活性化に役に立てばと職務に取り組んできました。都松地区は、農業が基幹産業の地域でしたが、農業の衰退と共に若者の流出が続き年々高齢化が進み過疎化してきました。そうした中、平成27年に地域の活性化を図るため振興協議会を立ち上げ、廃校となった都松小学校に「ふれあいセンター」が設立されて、色々な行事が開催され地域の人々のふれあう場ができて大変喜ばれています。また、地域の健康づくりとして「エゴマ」「黒にんにく」「甘茶」等の栽培に取り組み、地域の特産品にと、日々努力をしています。この振興会の取組みについて「リマテック九州社」の多大なる御支援があることに深く感謝をしています。地域の活性化には活力のある地場企業が必要だと思っています。これからもリマテック九州社が益々発展し、地域の雇用拡大が、この地域の活性化につながると思います。リマテックグループの益々の発展を心よりお祈りいたします。

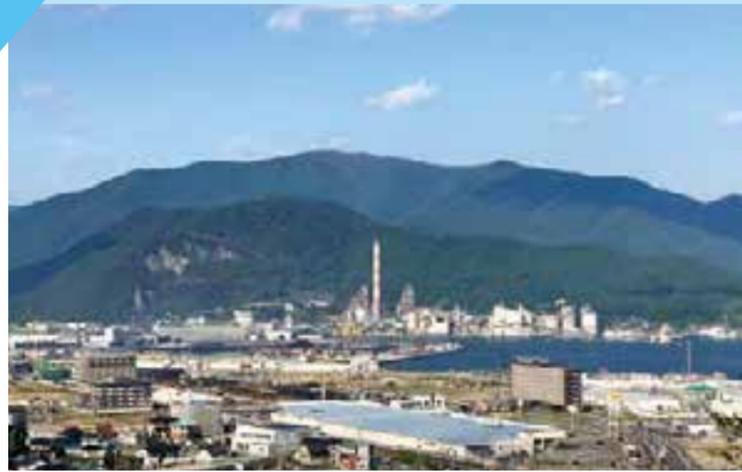


都松区長会 会長 野中 輝美 氏



リマテック東北株式会社

- 資源循環に関する請負業務
- 廃棄物再資源化コーディネート業務
- 地域再生可能エネルギーシステム構築に関する業務



復興が進む大船渡市

ステークホルダーとの協創による新たな事業・価値の創出に向けて

リマテック東北として今年で4年目を迎え、大船渡市を拠点に事業基盤の構築を着々と進めております。まず2016年度には環境マネジメントシステムの構築を、また2017年度からは労働安全衛生マネジメントシステムの構築と、これらマネジメントシステムの統合を目指しています。

また、事業としては、太平洋セメント株式会社大船渡工場内の再資源化請負業務を中心に、さまざまな廃棄物に対する資源循環のご提案、再生可能エネルギーとその他事業を複合させた新規事業化の検討も継続して取り組んでいます。

さらに、資源効率の向上を目指した、新たな価値づくりの取り組みもスタートさせました。

以下に、一部ではございますが、その活動をご紹介します。

有価物化による資源使用量削減のご提案

プリント配線板製造会社より排出されている廃液や、これまで埋め立てられることが多かった塩化ビニル系の廃プラスチック類を、有価物として引き取り、再生利用を行うことで、今までお客様の課題であったコスト削減ができ、さらに資源使用量削減につながるのと同時に、廃棄物排出量削減にもつなげることで、お客様よりさまざまな廃棄物のご相談をいただけるようになりました。

これからもお客様から信頼を得られるご提案を積極的に行うことで、資源循環に貢献していきたいと考えております。



プリント基板廃液



塩ビ系廃プラスチック

地域の不法投棄物・震災廃棄物の再資源化・適正処理のご提案



気仙地域沿岸の漁港に不法投棄された混合廃棄物（廃プラ・タイヤ・家電・コンクリートがら等）や、津波の影響で海底に堆積した海中がれきなどの処理困難物を、地元の業者様とともに再資源化および適正処理のご提案を実施いたしました。

今後、お客様が抱えられている課題があったとき、気軽に第一報の相談をしていただけるような会社になれるよう、これからも一期一会を大切に、日々の業務に努めてまいります。

気仙広域環境未来都市シンポジウムに参加いたしました

2017年3月20日に大船渡市のリアスホールにて、気仙広域環境未来都市シンポジウムが開催され、パネリストとして弊社から参加させていただきました。2014年からの活動と、今後の活動について気仙地域の皆様にご報告を行いました。

2017 TOPICS

今後の取り組み

◎事業基盤の構築

昨年度環境マネジメントシステム構築に続き、今年度は労働安全衛生マネジメントシステムを構築すべく活動を行っています。ISOなどの規格は、従来のマネジメントシステムとの融合が難しく、別建てのマネジメントシステム運用となることが多いのですが、今年度の環境、労働安全衛生のマネジメントシステム統合をきっかけに、通常のマネジメントシステムとも一体化できるような仕組み構築を目指しています。



認証登録証

◎大船渡プロジェクトのその後

地域再生可能エネルギー（メタン発酵）の事業化を目指していましたが、単体事業としての成立が難しいと判断し、現在は複合事業として「使用する資源」が共通であることを条件とした事業化検討を実施しています。東北における復興需要が取戻してきている中で、当社として事業が成立し、地域にもメリットのある事業化を目指しています。

◎持続可能な新たな価値づくりへの挑戦

企業の環境活動は、一般的にCSR活動の一環として実施され、事業としては切り離されて考えられがちです。当社では、事業としても成立し、地域における環境負荷低減や資源効率の向上につながる価値創出を目的に、新たな取り組みに挑戦しています。

短期的には、「使い捨てない価値」の創出を目指し、長期的には「資源効率の向上が可能な素材」の提案までを視野に入れ、取り組みを開始しました。「使い捨てない価値」については、素材の耐久性も重要なのですが、当社では「デザイン」に着目し、長く使用しても飽きのこないモノを再生素材から制作し、企業や地域のノベルティとして活用するなどの提案を実施しました。

現在、これらの活動についてのホームページの制作に入っており、新たな価値に共感いただける方との協同プロジェクトとして展開していきたいと考えています。



廃材



廃材活用カレンダー

社員の声

営業部 村山 勇亮

リマテック東北は、広域ネットワークを活かした処理のご提案、資源循環のご提案などさまざまな廃棄物に対するご提案をしております。復興工事も進んでおりますが、復興工事に伴う処理困難物も存在いたします。処理困難物は、セメント再資源化の受入規格に満たない物もあり、受入規格をクリアする為メーカーと事前試験実施後、前処理方法をご提案しセメント再資源化を行うことができました。地元業者様と協力し、混合廃棄物の適正処理などリマテックグループの経験やノウハウを活かし積極的に業務を行っています。地域の方々と協力し、今後も資源循環の取り組みなど積極的に行い、この地域で「リマテック東北に相談すれば解決してくれる」という相談窓口として評価をいただけるよう、活動をしていきたいと思っております。





リマテックR&D株式会社

- 海外事業
- 新規事業・技術の開発



オープンイノベーションによる次世代環境技術の創出

リマテック R&D は、次世代環境事業・技術の創出によるさまざまな環境課題の解決に取り組んでいます。さらなる多様化・複雑化をみせる環境課題を解決するイノベーションの創出を実現するべく、リマテックグループがこれまで培ってきた技術・ノウハウと外部の知見や技術をマッチさせるオープンイノベーションにも積極的に取り組んでいます。グループ企業をはじめ、さまざまなステークホルダーの皆様と協働で、ESG*の視点を持ちながら資源循環インフラの構築に取り組むことが、リマテックグループのミッションを果たすと信じてチャレンジしてまいります。

*ESG:環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字をとったもの。

循環型社会の形成に向けて

イノベーションハブを目指した企画調査

当社が事業領域とする資源リサイクル・再生エネルギー分野をはじめとする環境分野では、技術だけを起点としてイノベーションを創出することは容易ではありません。当社では、国内外の潜在化している社会課題を広く掘り起こしながら、社内外の技術・ノウハウとマッチングさせるイノベーションハブの機能を担うことで、その創出を目指しています。(下表参照)

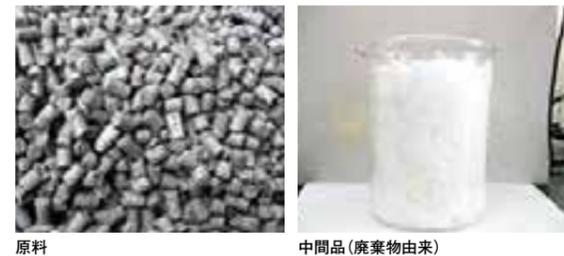
特に海外の実行ステージにある二つの大型プロジェクトについては、まもなく開始されるプラント建設工事に向け、グループの東南アジア事業統括を行う RETMATEC & KSN Thailand と連携してその準備を進めています。

	海外領域	国内領域
実行ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラサムットチェディプロジェクト ・EFBプロジェクト (詳細はP30,31参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンテンマル®プロジェクト (詳細は右ページ参照) ・災害廃棄物処理コンサルティング
調査ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO/TC300 関連 ・水俣条約関連 ・2次電池関連 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系有害廃棄物関連 ・RF事業へのIoT・AI導入 ・ISO45001関連

廃棄物由来の低コストバッテリー原料開発について

循環型社会形成には Reduce、Reuse、Recycle の 3R 推進が必要です。当社ではこれまで利用されていなかった廃棄物中にレアメタル成分が含まれていることに着目し、これを回収して有用物として再利用することを目的として、バッテリー素材一貫製造プロセスの技術開発と事業化に取り組んできました。

2016 年度はパイロットスケールでの実証・評価を行い、より低コストで複数の原材料から目的素材を製造できることを確認しました。



原料 中間品 (廃棄物由来)

2017 TOPICS

◎ 漁業とセメントとの融合 ~マンテンマル®プロジェクト~

日本は水産資源に恵まれた国でしたが、近年減少傾向にあり、その要因に藻場や干潟の喪失が挙げられます。当社では太平洋セメント株式会社様と協働で、バイオマス資源 (木材コンビナートから発生する木くずや魚アラのリサイクル工程副産物) とセメントコーティング技術を組み合わせ合わせた栄養供給骨材「マンテンマル®」の開発を進め、解決に取り組んでいます。マンテンマル®は、藻類の育成促進や魚や貝などの蛸集 (いしゅう: 生物が寄り集まる状態) など沿岸域再生に有効な機能を有しています。

また大阪府立大学や NPO 法人等とも連携し、科学技術振興機構社会技術研究開発センター (JST RISTEX) 「持続可能な多世代共創社会のデザイン」の「魚庭 (なにわ) の海の再生プロジェクト」のサブテーマの一つとして、2016 年度から3ヵ年のプログラムで活動しています。

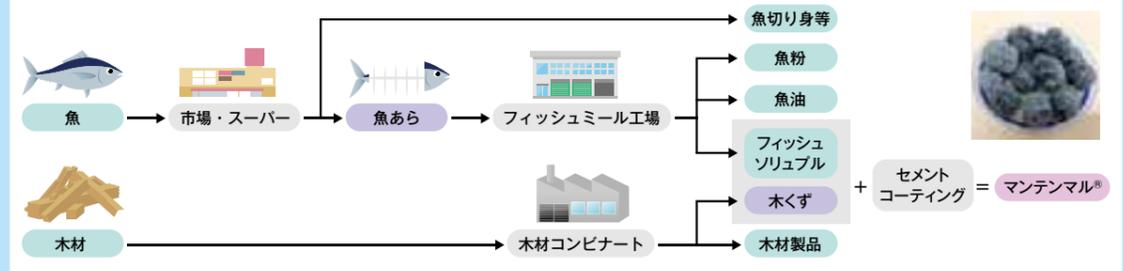
ステークホルダーの声



太平洋セメント株式会社
中央研究所
第3研究部 部長
高野 博幸 氏

近年、日本では沿岸海域の環境悪化により漁業生産量が減少傾向にあります。この問題の解決を目指して、当社はリマテック R&D 殿と共同で魚アラを活用した栄養供給骨材「マンテンマル®」を開発しました。本資材はアミノ酸を含む球状のセメント系資材で、魚海類の誘引など良好な海洋環境を形成に寄与するものです。現在、科学技術振興機構の助成を受けて大阪湾での海域実証を実施しています。事業化においては、適用海域での魚アラ等の原料調達および製造が必要と考えており、リマテック R&D 殿との協働が必須と考えております。早期事業化を目指し、開発を進めてまいります。

発生フロー



◎ 国内外への技術情報発信

当社は、リマテックグループがこれまで取り組んできた課題解決の事例や保有する技術の情報を国内外に発信するため、企業や市民団体、JICA などからの工場見学受入れやセミナーでの講演発表などを行っています。

当グループの技術が実際に稼働している様子をご覧いただくことが、廃棄物処理に関する深刻な課題を抱えているステークホルダーの皆様にもソリューションを提供する最高の場であるとと考えています。



◎ 社内における環境教育

当社では、環境課題に対する更なるイノベーション創出につなげることを目的に、ステークホルダーの皆様にご協力いただき2016年12月に社外施設見学会を開催しました。見学先の工場はそれぞれ、当グループとは異なる形で Waste to Energy (廃棄物からのエネルギー回収) を行っており、その優れたリサイクルシステムや管理体制は、今後の取り組みに大いに参考となりました。



社員の感想より

見学先の共通事項として、省力化(自動化)の積極的推進が挙げられます。固定費の抑制とともに人的要因による事故防止の面で優位なため、これからの当社事業化においても、こうした観点を持って取り組んでいきたいです。



RTT株式会社

- 産業廃棄物収集運搬業
- 一般貨物運送事業
- 設備清掃作業等



2017 TOPICS

新エネルギー物流インフラの構築に向けた運送技術力の拡大

国内における地球温暖化対策として、環境制約と成長の両立を実現する、エネルギー革新戦略が動き出しています。今後、中小規模工場への新エネルギーとなる水素や、排熱の熱エネルギー等の廉価な輸送インフラの構築が必要不可欠となります。

まずは、レックス、三岐通運株式会社様および株式会社森商事様の荷主に対して、産業廃棄物、副産物および一般貨物の輸送において、弊社を中心とした共同物流網（協力会社の運送ルートのマッチング、また繁忙期・閑散期の運転手や運搬車両の有効活用、人財を確保するために安心して働ける環境をつくる新人教育センターの設置等）を構築し、ご利用いただき、二酸化炭素排出量と輸送コストの削減をご提供することを考えています。この共同物流網を活用することで、中小規模工場が多い関西エリアでの「新エネルギー小口物流市場」を創出することができます。

今年度は、共同物流網を構築するために必要な新人教育センターの設置に向けて、「高度な運送技術が必要なタンクトラック専門会社」として、さまざまなトラックの運送技術を習得することを開始しました。バルク車による粉粒体運送は三岐通運様、ケミカルローリー車による毒劇物運送は森商事様の技術やノウハウを活用させていただき、運送技術力を拡大させています。



従業員の声

大阪支社 運行部 北村 秀一

ケミカルローリー車による毒物運送技術の習得

私は入社して9年目になります。担当業務は主にタンクローリー車による廃油（産業廃棄物）の収集運搬業務でしたが、この度、それに加えケミカルローリー車による毒物であるフッ酸（製品）の運送業務を担当させていただくこととなりました。

まず驚いたのが、ケミカルローリー車には真空ポンプとコンプレッサーが搭載されており、レバーやバルブが多く、またホース接続方法の違いなど、覚えなければならない作業手順や安全確認箇所がたくさんあるので、これまで使用しているタンクローリー車よりも難易度が高いことでした。さらに、フッ酸については皮膚に接触すると体内に容易に浸透し、骨を侵すほどの特に危険な性質があり、従来以上に慎重に取り扱う必要性があることでした。

当初は、驚きや戸惑いが有り自分にできるのだろうかかと不安でしたが、株式会社森商事様の適切な指導により、毒物運送技術を習得することができました。

今後は、順次この技術を他の乗務員へ引き継ぎさらなる技術の向上を図ります。また、この新規業務をお客様に安心して任せていただけるようになるために、漏洩事故や薬傷事故を起こさず無事故を続ける事でお客様の信頼を得る事ができ、別の仕事を任せていただけるよう努力してまいります。



ステークホルダーの声

【我々がやる！】の精神で

弊社は、昭和25年の創業から現在まで、時代の変換とともに変わりゆく静脈物流に携わってまいりました。その中でも、近年、我々に強く求められることは、コンプライアンス、安全、安心は基より、あらゆる場面にも対応できる起動力であったりとさまざまです。

それをもって、昨今の人材不足の波は物流業界に限らずあらゆる産業でつぶやかれる中、弊社は、互いの持ち合せたスキルとマンパワーでこの苦境を乗り越えるべく、この度、RTT社さんと業務提携を行い、中部、近畿地区の業務を中心にお手伝いいただく運びとなりました。

弊社が取り扱う品物は、無機系（毒劇物）が多く、中でも、いわゆる強酸性の物性については、RTT社さんにはあまりなじみのない分野だったのでは？と思いますが、新しい業務（物性）に対する、久永社長を始めスタッフの皆様の、細やかに且つ、実直に、諦めずに対応していただく【熱意】に強く感心いたしました。（おかげさまで、お客様にも好評価をいただいております。）



株式会社 森商事
専務取締役
森 浩幸 氏

【我々にしかできない。だから我々がやる！】を実行し続けてきた弊社の信念と同じ思いを感じた久永社長に深く感銘を受け、今後も互いが持ち合せたスキルとマンパワーを駆使してお客様のご要望にお応えする事で、双方の企業の発展へ繋げて行きたいと思っています。久永社長を始め、RTT社の皆様、これからも【我々がやる！】の精神で、互いのスキルアップを目指しましょう。

従業員から ひと言





REMATEC & KSN Thailand Co., Ltd.

●タイ王国及びアジアにおける
資源循環事業の企画・開発・投資



東南アジア地域における環境分野のソーシャルイノベーターとして

REMATEC&KSN Thailand (RKT) では、タイ王国における廃棄物リサイクル事業の企画推進をはじめ、アジアにおける未利用資源の活用事業開発、およびそれら事業への投資を主な業務としています。

2016年から17年度にかけては、RKTが手掛けてきたさまざまなプロジェクトが実行ステージに突入しています。

まずタイ国内では、タイ最大の企業グループであるサイアムセメントグループのSCI ECO Services Co., Ltd. との合弁会社Green Conservation Solutions (GCS) による未利用残渣のリサイクルプラントが竣工し、現在試運転が行われています。また地方自治体や日本のリマテック R&D、NEDO と共同で進めてきたブラサムットチェディプロジェクトもまもなく開始予定です。

マレーシアに目を移すと、現地企業 The Green Biomass Sdn. Bhd. (TGB) や日本の太平洋セメント株式会社様と共同で進めてきた EFB (Empty Fruit Bunch) ペレットプロジェクトがパイロット試験を終え、建設工事を開始しています。

トップコミットメント



Environmental Innovation for Asia ～アジアの環境イノベーションに向けて～

REMATEC & KSN Thailand Co., Ltd. CEO
Chanet Rattakunjara (チャネット ラタクンジャラ)

タイは、日本と比べて廃棄物の処理そして再利用が遅れており、国内で大きな環境問題となっています。REMATEC & KSN Thailand ではリマテックグループと株式会社関西再資源ネットワーク (KSN) の経験を生かし、タイにあった廃棄物処理システムの構築を経て環境改善と保全に貢献していくことを目指しています。

またタイだけでなく、マレーシアの合弁会社 The Green Biomass Sdn. Bhd. と共同でパーム油生産過程で発生するパーム房 (EFB) 廃棄物の燃料化に取り組んでおり、従来の埋立処分が引き起こしていた環境問題の改善にも注力しています。

社員の声

CSR-Team Leader Utaree Norkam (ウタリー ノーカム)

For clean environment at Phra Samut Chedi ～ブラサムットチェディ郡のきれいな環境のために～

私は、ブラサムットチェディ郡クリーン環境技術実証プロジェクト*で CSR チームのリーダーを務めています。私たちの主な役割は、次世代のために適正な廃棄物処理が必要であることを自治体や地域の皆様に広報することです。

笑顔、熱意、誠実、そして謙虚さによって、チームのメンバー、市民の皆様、自治体の職員など、誰からも愛され、尊敬されるプロジェクトを目指しています。

※参考URL <https://www.newcleanforprasamutchedi.com/>



2017 TOPICS

◎GCSオンヌットリサイクル施設の竣工

RKTとサイアムセメントグループとの合弁会社 GCS が、現地の堆肥化工場から発生する埋立残渣のリサイクル施設を2017年5月に竣工しました。本施設はSCI ECO Servicesによって設計・建設が行われました。RKTは日本のリマテックグループ及び株式会社関西再資源ネットワークのサポートを得て、施設スタッフの教育・運転指導等を行っています。



◎ブラサムットチェディプロジェクトの事業紹介ムービーが完成

日本の NEDO やリマテック R&D、タイの地方自治体や GCS と共同で進めているブラサムットチェディプロジェクトの事業紹介ムービーが完成しました。

イメージキャラクターのごみの妖精が、女の子に対してプロジェクトの概要のほか、リサイクルの重要性をわかりやすく説明する内容になっています。

ムービーは、事業開始後プラント見学者への説明に使用する他、リマテックグループのホームページでも公開予定ですので、関心がありましたらぜひご覧ください。

ステークホルダーの声



For co-existing with environment

～環境と共存していくために～

The Green Biomass Sdn. Bhd. Managing Director
Mr. Loi Tien How, jeff (ロイ ティエン ハウ ジェフ)

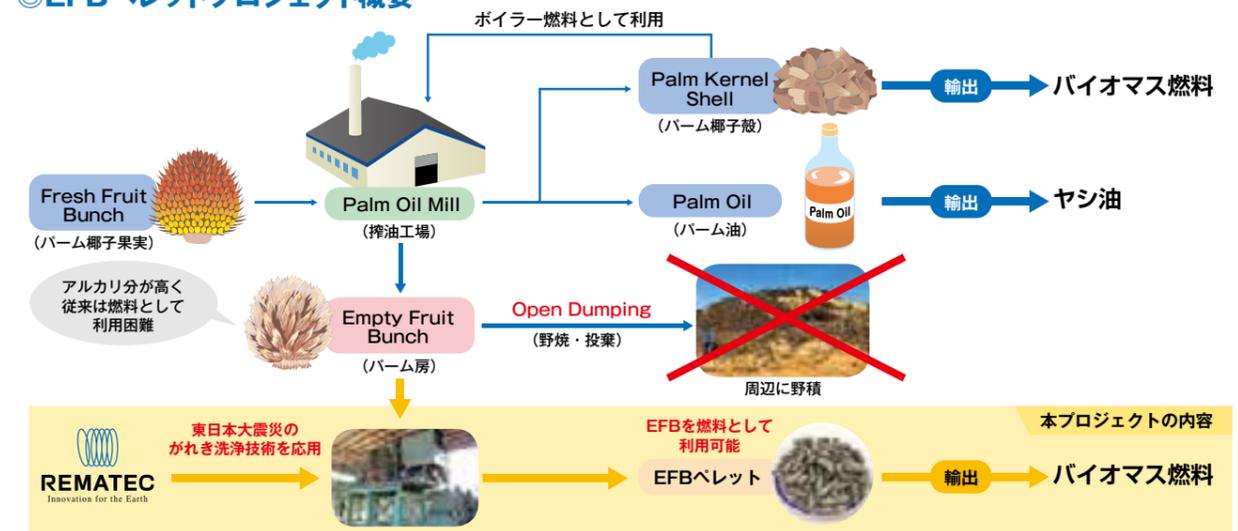
私は The Green Biomass の社長のジェフと申します。The Green Biomass は2010年に設立され、現在は RKT との合弁会社となっています。私自身は現在 The Green Biomass の経営・運営そして戦略立案を任されています。

マレーシアでは、パームヤシ関連の産業が活発でマレーシア経済を支える産業の一つとなっています。一方で、環境に対し大きく負荷をかける産業でもあります。

The Green Biomass はこの環境負荷を軽減するためパーム廃棄物の燃料化にリマテックグループと協力し注力しています。リマテックグループは技術の応用を得意としており、いつも感心させられます。

パーム産業が本当に環境と共存可能な産業になれるよう、貢献していきたいと思っています。

◎EFBペレットプロジェクト概要





株式会社レックス

●資源循環ソリューション



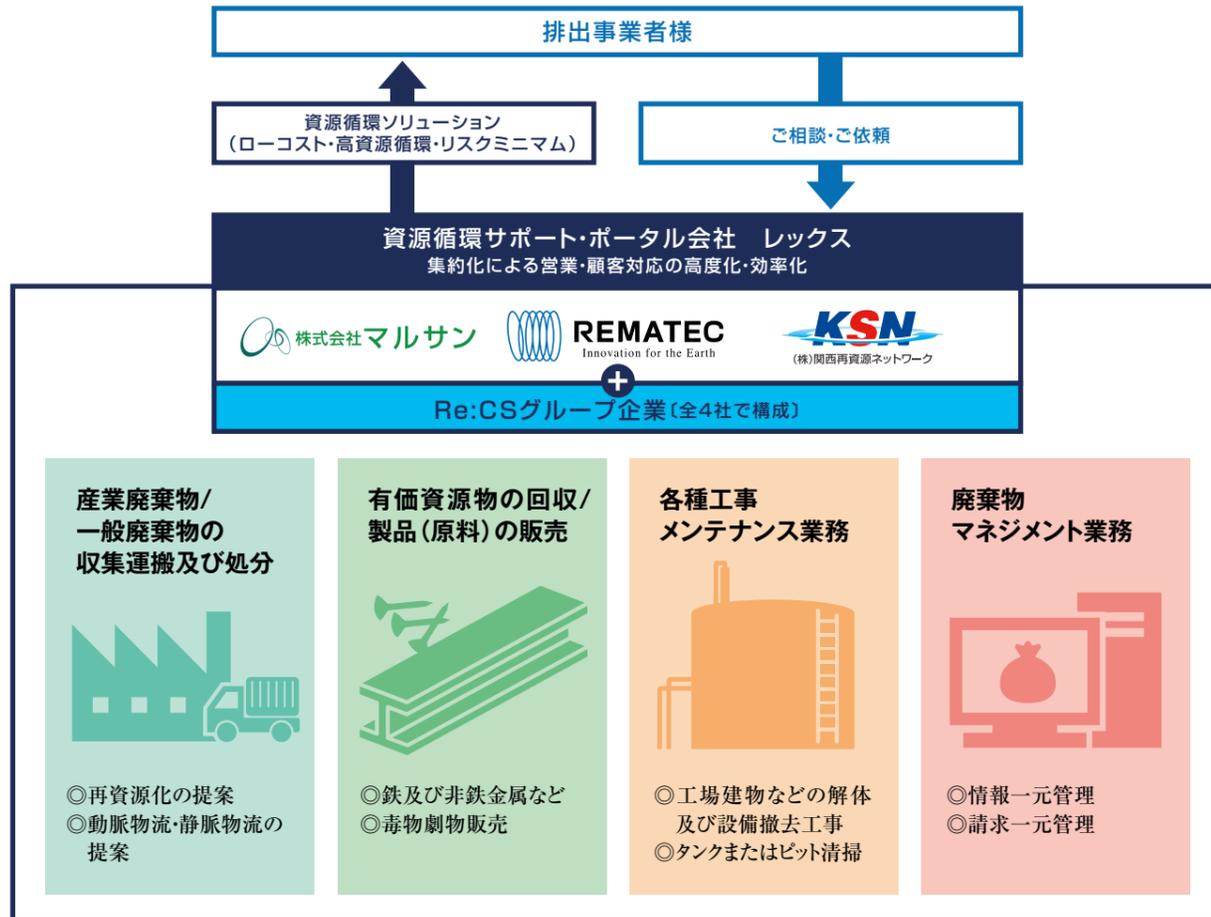
コーポレートスローガン

『Re-Creation for Sustainable Society (持続可能な社会に向けた再創造)』の実現を目指して

関西を拠点に再資源化事業を行ってきた「リマテック株式会社 (大阪府岸和田市)」、「株式会社マルサン (大阪府吹田市)」、「株式会社関西再資源ネットワーク (大阪府堺市)」の3社の営業部門を独立させ、2016年3月1日に設立し、3期目を迎えることができました。従来行ってきたサービスの更なる向上を図るとともに、多様な選択肢の中から最適な資源循環サービスを提供できるよう、更にお客様に寄り添い信頼されるパートナーとして、資源循環に関してのお困り事を解決するよう努めてまいります。

レックスの強み～資源循環ワンストップサービス～

関西においてトップクラスの実績を持つ7社が、排出業者様へ寄り添ったベストなソリューションを提供するための協力体制を構築しております。



2017 TOPICS

◎人財の充実化

社会情勢や職場環境など、取り巻く環境が大きく変化している中、レックスでは新たな営業社員の獲得や育成に積極的に取り組んでいます。OJT や社内研修を行うことで、営業における「現場力」の向上を図り、さらなるプロフェッショナルを目指します。



◎お客様目線によるサービスの向上

お客様から、より一層信頼されるパートナーとなり、最適な資源循環サービスの提供することを目指しています。そのために、営業管理支援ツールを導入し、日々の営業活動の効率化と営業社員のノウハウを集約することができました。これにより、3社のノウハウを全ての営業社員が確実に継承し、今まで以上のサービスを「お客様目線で徹底」することが可能となりました。

◎JPTA (一般社団法人 日本PCB全量廃棄促進協会) への加入

PCB (ポリ塩化ビフェニル) の廃棄処理を平成33年3月31日までに全廃させることを使命として、レックスはJPTAに加入しました。関西エリアを中心に保管事業者様からの PCB 廃棄処理業務を支援、PCB 廃棄物のあらゆる課題にベストなサービスを提案させていただきます。

- ①照明器具の全数調査
- ②安定器などのPCB分別調査及びJESCO (中間貯蔵・環境安全事業株式会社) への搬入荷姿登録
- ③低濃度PCB廃棄物の処理提案



社員の声

営業部 係長 西村 雅史

レックスも会社創立からはや1年半が経ちました。3社から転籍した営業社員 (私を含め) やレックスから採用された新入社員は、産業廃棄物を通してさまざまな業界、企業をみて日々経験を積み、視野を広げられるよう励んでおります。

私個人としては多くの企業・お客様と出逢って話をする機会を多く持ち、一期一会のご縁を楽しみに思い業務に務めさせていただいております。様々な経験を活かして、営業スキルの向上を図り、発展し続ける会社を目指します。

この文章を読まれた方にご縁があると信じ、私どもレックスにご用お任せいただければ幸いです。



ステークホルダーからの声

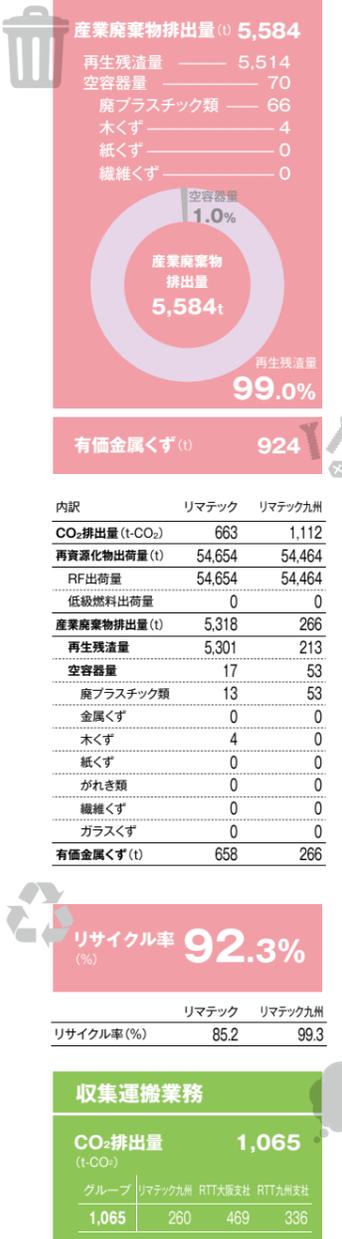
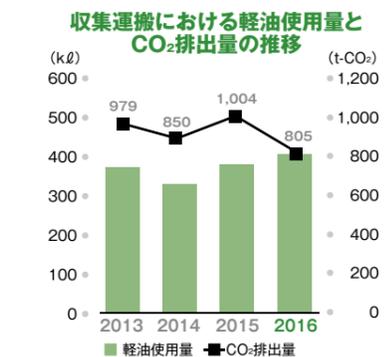
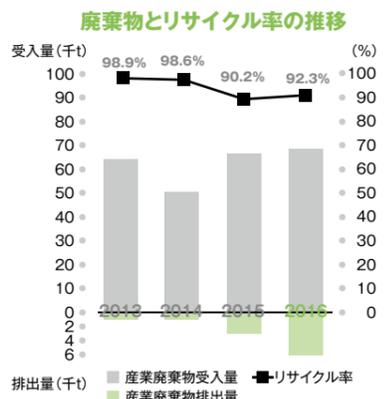
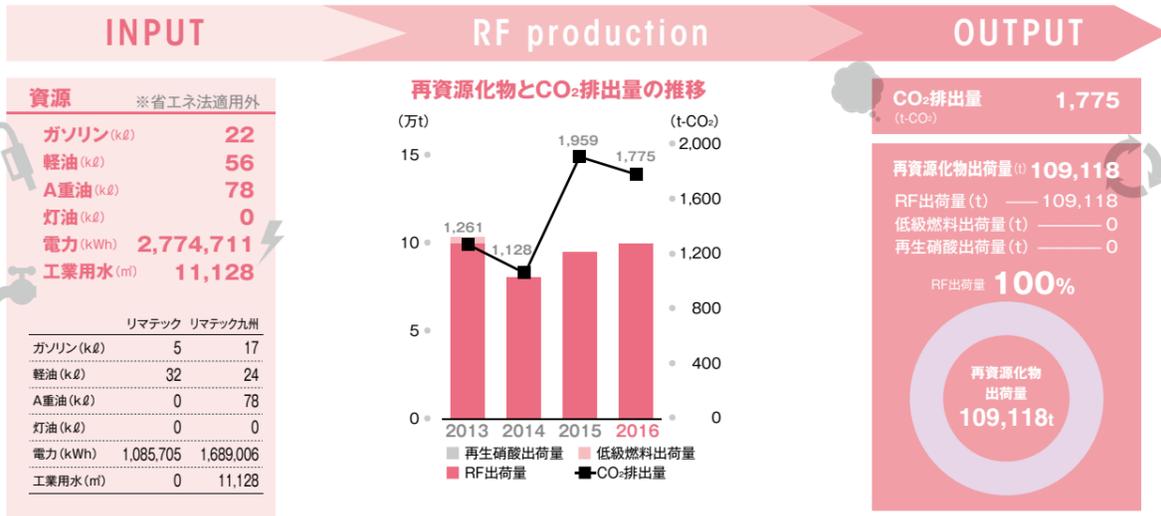


株式会社 マルサン
摂津事業所 所長
大前 智裕 氏

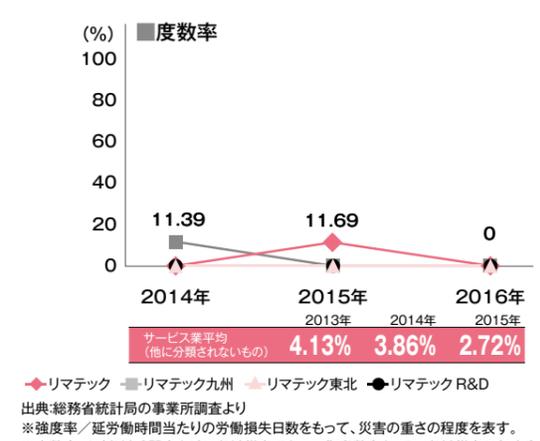
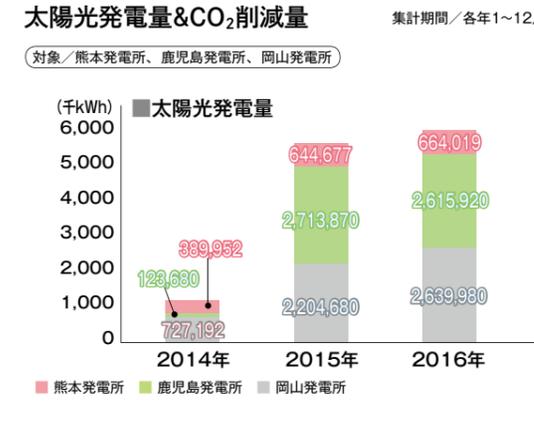
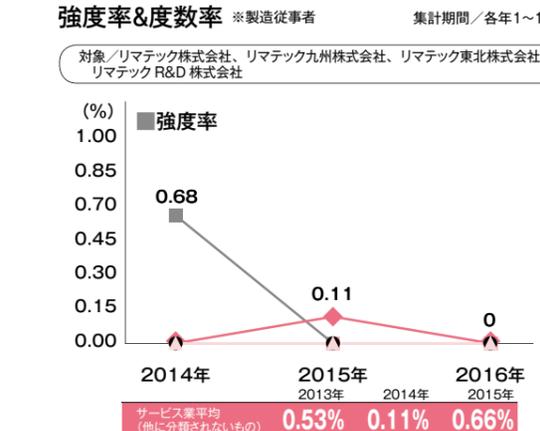
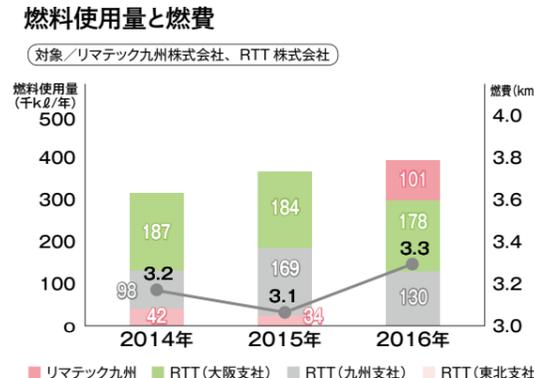
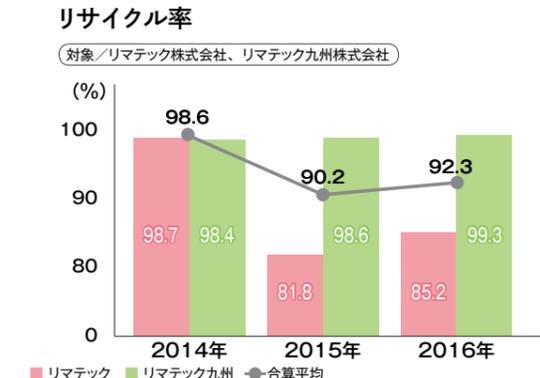
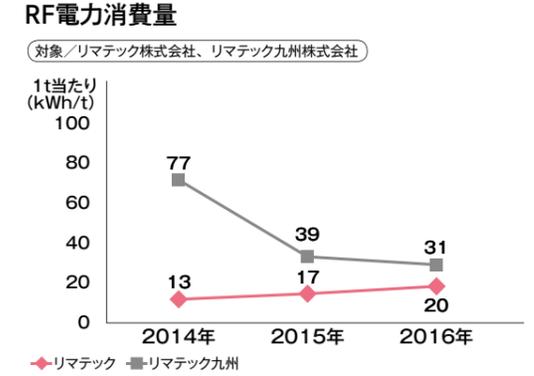
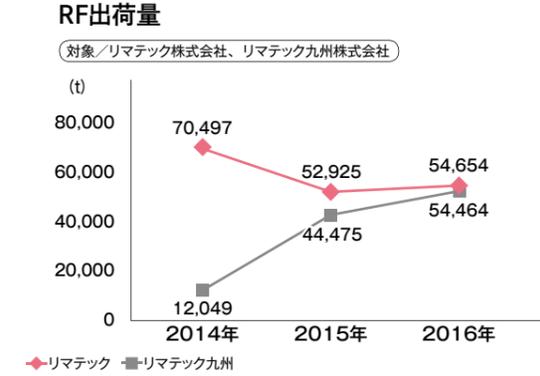
マルサン摂津事業所の所長を務めさせていただいております、大前 智裕と申します。まず、マルサンのご説明をさせていただきますと、業務内容は、産業廃棄物の処理および吹田市からの一般廃棄物の収集運搬業務を行っており、産業廃棄物取扱品目としては廃プラ等の混合物を選別・破碎および減容固化による中間処理を行い、RPF燃料化およびマテリアルリサイクルを行っております。レックスの設立に伴い、様々な課題に対して幅広く提案ができるようになり、ビジネスチャンスの増加を期待しております。ただそのためには、固形物関係・廃液関係・食品関係それぞれのグループ3社に特化した、ネットワークの提案および協力が必要不可欠です。益々、レックスグループが発展していけるよう、マルサンも尽力していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

RF事業における環境パフォーマンスデータ

対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、RTT株式会社
集計期間/2016年4月~2017年3月



2014-2016年度リマテックグループデータ実績



2016年度実績(重点取組を一部抜粋)

リマテック

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	再資源化における天然資源の枯渇抑制	出荷目標 RF燃料: 53,880t	RF燃料を安定出荷することで天然資源の枯渇抑制	RF燃料: 54,654t	○
	再資源化における天然資源の枯渇抑制	メタン発酵発電量: 1,033,392kWh/年	MFP施設メタン発酵における発電の効率化	メタン発酵発電量: 1,120,650kWh/年	○
	天然資源の枯渇抑制(電力削減)	RF燃料11生産に当たり、電力消費量: 17.1kWh	2015年度に大型設備を導入したことで、電力使用量が大幅増大	電力消費量: 平均20.1kWh	×
	法規制遵守(悪臭防止法)	臭気測定 敷地境界線(臭気指数10未満)、排気口(38未満)	臭気測定: 2回/年(4月、10月実施)	測定実施、基準値内	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	防災	地震発生による災害防止	■防災訓練の実施: 1回/年 ■緊急時対応手順の確認	大阪工場にて実施(3月)	○

リマテック九州

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	地域環境保全活動	騒音・臭気クレーム: 0件	■脱臭設備の稼働状況の確認 ■作業後の扉・シャッター「閉」の徹底 ■定期的な環境パトロールによるチェック	0件	○
	水質・土壌汚染防止	漏洩事故: 0件	■日々の現場パトロールと計画的な設備点検 ■収集運搬時の積載と定期的な車両整備確認	2件	×
	セメント再資源化への貢献	自社トラブルによる供給停止: 0件	■日々の現場パトロールと計画的な設備点検 ■RF供給前の性状確認(pH・粘性等)	1件	×
	水質汚染防止	水質基準をクリアできない放流水(雨水)の排出: 0件 (pH5.8以上~8.6以下、透視度500mm以上)	■雨水処理設備の定期的メンテナンス ■3者(近隣住民・行政・当社)立会によるサンプリングからの第三者機関の水質検査	0件 (pH5.8以上~8.6以下、透視度500mm以上)	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害: 0件	■各部署のリスクアセスメントの実施 ■リスク削減に向けた設備改善 ■定期的な安全教育と現場パトロールの実施(社長パトロール)	0件	○
	衛生	健康個人目標の達成: 85%以上	■健康個人目標達成状況の進捗管理と産業医・保健師面談 ■ストレスチェックの実施	96%	○
	防災	防災訓練(火災事故等): 1回/年(100%)	■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施 ■震災時における安否確認メール配信システムの整備	100%	○
	交通	交通事故・重大違反: 0件	■各部署内での事故事例検討 ■「豊の国セーフティチャレンジ」に参加(10チーム⇒50名) ■交通安全運動に参加(期間中、街頭指導8回⇒56名)	1件	×

RTT

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	地球温暖化の防止	燃料使用量の削減: 燃費3.57km/l	添乗指導によるムリ・ムダ・ムラの排除	3.60km/ℓ	○
	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
安全衛生活動	安心して暮らせる社会の実現	人身事故の撲滅: 事故発生0件	添乗指導による基本動作の確認、自覚、納得および指導	0件	○

リマテックR&D

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	温暖化防止	レア金属回収事業の事業化(進捗度60%)	廃棄物原料からバッテリー素材製造一貫プロセスの実証実験	開発完了	○
	温暖化防止	バイオマス利用エネルギー回収事業の事業化(進捗度25%)	タイ王国都市ごみ燃料化学実証プラント建設開始	建設開始に至らず (計画より遅延、2018年度建設予定)	×
	情報発信	環境技術の認知度向上	工場見学の積極的受入	100%対応	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	職場リスクの低減活動	パトロール実施(毎月)	現場の不安全不具合箇所の指摘と改善	毎月実施	○
		改善提案規程書(1件以上/月)	改善提案制度の整備と改善サイクルの確立	9件	×
		機器一覧と校正・点検記録	点検機材・機器の把握と点検漏れの防止	毎月実施	○
		実施報告書の提出	■BCP概念を含んだ教育・訓練の実施 ■交通KY・適性診断テストの実施	■漏洩訓練、地震避難訓練各1件 ■交通KY: 2回 ■適性診断テスト実施	○
3年整備計画	計画書の作成	実施に至らず	×		
防災	交通KY: 2回/年、適性診断テスト: 1回/年	交通KY実施・適性診断テスト	■交通KY: 2回 ■適性診断テスト実施	○	
ダイバーシティ	3年整備計画	計画書の作成	0件	○	

リマテック東北

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
環境管理活動	地域環境保全活動	清掃活動の実施	■工場周辺道路や河川堤防等でのゴミ拾い	■TCC社との合同清掃実施(6月、11月) ■構内一斉清掃実施(1回/月)	○	
	請負業務での環境保全	周辺環境に配慮した作業の実施: 苦情0件	■塵埃防止 ■油の適正処理 ■騒音振動の抑制 ■白濁水の河川流出防止 ■重機での燃料使用量の削減	■苦情: 0件 ■各重機での燃料使用量データ取得中	○	
	セメント再資源化への貢献	請負業務の全量適正前処理: 受入拒否0件	■当社設備トラブルの防止・対応	■受入拒否: 0件達成	○	
	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
安全衛生活動	安全	職場の危険箇所の撲滅を図る 日常の安全活動の充実とルールでの定着化 重機車間による物損事故: 0件	■始業前KY ■始業前・休憩後に指差し唱和 ■相互注意の実施 ■終業後に5分間ミーティング実施 ■始業前KYの確実な実施 ■指差し呼称の定着化 ■基本事項の再徹底 ■外部教育の受講	■KY進行方法を周知実施 ■記入漏れをパトロールで確認 ■重機接触物損事故: 5件	○ ×	
		衛生	個人健康目標達成率: 85%以上	■自主健康管理目標の設定と生活習慣病の抑制推進	■目標達成率: 90%達成	○

3カ年目標《2017-2019年度》(重点取組を一部抜粋)

リマテック

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
環境管理活動	電力(RF燃料1tあたりの電力消費量)	製造	18.5kWh	18.5kWh	18.5kWh	18.5kWh	18.5kWh	18.5kWh
	原料油の配合率を下げた廃棄物の有効利用(原料油配合率)	製造	31%	31%	30%	31%	31%	30%
安全衛生活動	悪臭防止法(臭気対策)	環安	敷地境界線の臭気指数: 10未満 排気口の臭気指数: 38以下			敷地境界線の臭気指数: 10未満 排気口の臭気指数: 38以下		
	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
安全衛生活動	職場リスクの低減活動	製造環安	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
			■OHSAS: 18001登録認証 ■強度率: 0.025%	■教育・力量評価の強化 ■強度率: 0%	■2018~2019年にかけて設備老朽化を計画に落とし込み ■強度率: 0%	■統合審査認証登録 ■労働災害発生状況 ■強度率: 0.025%	■ISO: 45001導入に向けて準備 ■労働災害発生状況 ■強度率: 0%	■ISO: 45001運用開始予定 ■労働災害発生状況 ■強度率: 0%

リマテック九州

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
環境管理活動	電力削減(RF燃料1tあたりの電力消費量)	製造	35.87kWh	34.04kWh	33.00kWh	■月々のRF生産量に見合う電力消費量達成に向けた検討と諸施策の実行 ■タンク攪拌機の間欠運転による電力削減 ■低電力消費設備への変更検討		
	安定稼働の推進(RF生産目標の達成)	製造	46,000t/年	47,000t/年	48,000t/年	■保全要員の配置と定期的な設備点検及び改善活動による生産設備の安定稼働 ■タンク内性状(pH・圧力・温度等)の徹底監視による異常反応の抑止 ■製造作業における力量認定(OJT教育)		
安全衛生活動	放流水(雨水)の水質基準の遵守	環安	pH5.8以上~8.6以下、透視度: 500mm以上			■雨水処理設備の定期的なメンテナンスによる維持管理 ■放流水(雨水)の徹底監視(pH5.8以上~8.6以下、透視度: 500mm以上) ■3者(近隣住民・行政・当社)立会によるサンプリングからの第三者機関の水質検査		
	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
安全衛生活動	職場リスクの低減活動	全部門	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
			事故・災害発生件数: 0件	事故・災害発生件数: 0件	事故・災害発生件数: 0件	■網羅的なリスクアセスメント実施による危険因子排除 ■事故・災害リメンバーカレンダーを活用した類似事故防止への意識醸成 ■RF生産ライン等の設備自動化の検討		

RTT

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
環境管理活動	電力削減	運行	燃費: 3.60km/l			添乗指導によるムリ・ムダ・ムラの排除(運転経験の少ない新人の採用及び車両の老朽化により目標は現状維持とする)		
安全衛生活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
	職場リスクの低減活動	全部門	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
			事故・災害発生件数: 0件			添乗指導による基本動作の確認、自覚、納得および指導		

リマテックR&D

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
環境管理活動	電力削減	全部門	前年実績より5%削減 (年間平均11.138kWh以下)	前年実績より3%削減 (年間平均10.804kWh以下)	前年実績より2%削減 (年間平均10.588kWh以下)	前年実績より5%削減 (年間平均11.138kWh以下)	前年実績より3%削減 (年間平均10.804kWh以下)	前年実績より2%削減 (年間平均10.588kWh以下)
	資源循環への貢献	事業開発技術	バイオマス利用エネルギー回収事業の事業化 (タイ王国)都市ごみ燃料 化学実証事業プラント設計			(タイ王国)都市ごみ燃料 化学実証事業プラント設計 化学実証事業プラント建設 実証試験によるデータ取得		
安全衛生活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
	事故・災害の撲滅	全部門	事故・災害発生件数: 0件			■KY活動・定期パトロールの実施 ■法令・規程の遵守 ■リスクアセスメント実施およびハザードマップの作成・更新と周知 ■緊急事態への対応訓練 ■教育と力量評価		
安全衛生活動	社員の健康管理	全部門	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
			■ストレスチェック実施: 1回/年 ■健康診断受診率: 100%	■ストレスチェック実施: 1回/年 ■健康診断受診率: 100%	■ストレスチェック実施: 1回/年 ■健康診断受診率: 100%	■ストレスチェック制度の導入実施 ■定期健康診断の受診	■ストレスチェックおよびフォローの実施 ■定期健康診断の受診	■個人ごとの衛生目標の立案・実施

リマテック東北

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
環境管理活動	請負業務での環境保全	製造業務	■濁水の河川流出防止等 委託先からの苦情: 0件 ■重機での燃料使用量の削減: 前年度比5%減			■濁水の河川流出防止等 委託先からの苦情: 0件 ■重機での燃料使用量の削減: 前年度比6%減		
	資源循環への貢献(経営課題・顧客ニーズから)	営業製造	■復興への貢献 ■復興事業廃棄物の全量適正前処理 ■受入拒否: 0件			■雨天後の河川流出水の定期確認、対策実施 ■緊急事態への対応訓練(漏洩事故訓練) ■発塵防止、騒音振動の抑制 ■重機での燃料使用量削減策の検討・実施		
安全衛生活動	地域環境保全・地域貢献	全部門	工場周辺美化活動への参加: 2回/年以上			■工場周辺道路の美化活動(ゴミ拾い)参加 ■河川堤防沿いの美化活動		
	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
安全衛生活動	労働災害0件の維持	全部門	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
			物損事故0件の達成	物損事故0件の達成	物損事故0件の達成	■ヒューマンエラー対策の実施 KY活動・ルール遵守確認(管理職パトロール) ■設備・動線変更での安全対策・改善提案の実施等	■指差し呼称の定着化 ■基本的事項の再徹底	■個人ごとの衛生目標の立案・実施 ■定期健康診断の受診
安全衛生活動	社員の健康管理	全部門	個人衛生目標の達成: 80%以上			個人衛生目標の達成: 85%以上		

第三者意見



NPO法人環境文明21共同代表
藤村 コノエ 氏

今年のレポートでは、これまで以上にグローバルで長期的視野での事業展開が、社長メッセージと共に記載されています。日本国内での人口減少や産業（製造業やサービス業も含め）の海外転出、さらに海外の経済発展や都市人口の膨張などに伴う廃棄物の適正処理やリサイクルへのニーズの急速な高まりを考えれば、日本国内での成功実績を持ち、グローバルかつ長期的な視野に磨きをかけている田中社長が海外に乗り出すのは自然の流れでしょう。

一方国内のグループ各社も持株会社制に移行して三年が経過し、これまでと比較して、各々の役割や仕事内容がかなり明確に示されており、社員、関連企業や地域の方々からのメッセージからも現場での日々の業務がほぼ順調に進んでいることが伺えます。またそれらがSDGsとどう関連するかについて記載されているところは時代のニーズに合った新たな工夫として評価できます。

その一方で、海外への事業展開と国内グループ各社の事業の関連があまり明確ではありません。例えば、国内各社の技術をどう海外に展開していくのか、そのための人材をどう育成していくのか。現地雇用も実効性や社会貢献を考えればとても大切ですが、海外でも活躍しうる国内の人材をどう育成していく



第三者意見を 受けて

リマテックホールディングス株式会社
取締役副社長
中條 寿一

「CSRレポート2017」について、的確なご意見を賜り誠にありがとうございます。

海外展開をはじめとするグローバルな取り組みやグループ個社の成長過程を評価していただきましたこと、日々業務に邁進する我々にとって大変励みとなります。その反面、海外展開においてご指摘いただきました「国内事業との関連性が不明確」という点につきましては、関係する海外パートナーとの調整を行いつつ、現在、さまざまな連携に鋭意取り組んでおりますので、今しばらくのお時間を頂戴したいと思います。また、個社にお

のかは今後の課題です。

またCSRレポートである以上、リマテックの社会的使命は何かを明確に示す必要があります。田中社長のメッセージには「資源循環インフラを担う企業グループへ」と書かれていますが、グループ企業のトップメッセージや企業情報では、単なる事業レポートになっているところもあります。グループ各社にとって、何が社会的責任かをきちんと認識したうえで、その責任を果たしているか、何が不足しているかなどを意識的に記述してほしいと思います。特に、田中社長も書かれているように、パリ協定やSDGsなど近年の世界の動きは、廃棄物処理という個別課題から、より包括的な課題解決に向かっていることを考えれば、少なくとも各社の経営層はその意味をしっかりと理解し、自分たちの仕事・役割と世界的な動向を関連付け、事業を進展させていく必要があります。それが明確に記載されることで、頁右上に記載されたSDGsの各目標とのつながりがより明確になってくると思われます。

もう一つは、データです。文末のDATAについてはRF事業に限られていますが、グループ会社全体の事業全体のデータ整備が望まれます。特に従来から指摘していますが、CO₂排出量に関しては、グループ各社の工場、オフィス、車両等全てのデータを整備しリマテックグループとしての総排出量を記載してほしいと思います。国内目標だけでなくパリ協定で求められる削減量を達成するためには、まず各社の排出量の把握は必須です。

ここ数年社内体制も劇的に変化していますが、世界の動きに適応していくには変化は避けられないことです。その中でもリマテックの企業理念と良い伝統を忘れず、一丸となって挑戦を続けてほしいものです。

ける社会的責任が伝わらないということにつきましては、ご指摘の通り各社全体的に表現が薄く、CSRレポート本来の役割を再確認し、読む側を意識した具体的な表現に留意する努力が必要であると感じました。

現在、グループの属する業界においては「パリ協定」あるいは閣議決定された「地球温暖化対策計画」等の国内外取り組みの進展を踏まえ、「低炭素社会実行計画」を策定し、業態ごとに様々な取り組みを行っているところであります。最後にご指摘いただきましたCO₂排出量の管理につきましては、先述の業界として行う取り組みの一環として、グループ全体を巻き込んだ、より包括的な管理を行うための仕組みづくりを検討いたします。

今後もCSRレポートを重要な情報発信ツールと位置付け、藤村様よりいただいたご意見および社内外のステークホルダーからいただいた「お声」を参考に、より分かりやすく網羅性の高いレポートづくりに努めてまいります。

企業情報



リマテックホールディングス株式会社

本社 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809

<http://www.rematec.co.jp>



リマテック株式会社

本社/大阪工場 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-438-6434(代表) fax.072-422-3617

堺SC工場 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

藤原事業所 〒511-0515 三重県いなべ市藤原町大字東禅寺1361-1
tel.0594-46-4544 fax.0594-46-4544

南港事業所 〒559-0032 大阪府大阪市住之江区南港南7丁目
関西電力株式会社 南港発電所内
tel.06-6613-7761 fax.06-6613-7761

メタン発酵施設 〒596-0013 大阪府岸和田市臨海町16-1
岸和田フィッシュミール株式会社構内
tel.072-432-8004 fax.072-432-8004

<http://www.rematec.co.jp/rematec/>



リマテック九州株式会社

本社/九州工場 〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731

津久見事業所 〒879-2474 大分県津久見市合ノ元町2-1
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025

<http://rematec-kyushu.com/>

編集方針

リマテックグループでは、当社グループのCSR活動について、すべてのステークホルダーの皆様にご報告することを目的に情報を開示しています。このたび発行しました2017年度版CSRレポートは、女性を中心としたメンバーで取りまとめを行いました。制作のコンセプトは、「従業員を含むステークホルダーの方々にもわかるCSRレポート」です。今年の特集ページでは、「リマテックグループのネットワーク」や「数字で見るCSR」のページを新たに設け、世界で事業展開するグループ会社の拠点やリマテックグループのCSR活動を数字で表現し、視覚的に興味を引くようなページに仕上げました。また、その他新コンテンツとしてSDGsにも触れています。グループの事業や活動がSDGsとどのようなつながりがあるかを精査し、一部ページにて示

- 報告対象組織/リマテックグループ
- 報告書発行日/2017年12月1日
- 情報開示体系/このレポートは、リマテックグループのCSR活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や日々の活動を更新していますので、ぜひご覧ください。
<http://www.rematec.co.jp>



リマテック東北株式会社

本社 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527

<http://www.rematec.co.jp/tohoku/>



リマテックR&D株式会社

本社 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

<http://www.rematec.co.jp/rd/>



RTT株式会社

本社 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673

大阪支社 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881

九州支社 〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津市648-1
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821

<http://www.rtt-rematec.co.jp>



REMATEC&KSN Thailand Co., Ltd.

本社 No.589/158.29th Floor, Central City Tower, Bangna-Trad Road, Bangkok 10260, Thailand
tel: +66-(0)2-745-6793 fax: +66-(0)2-745-6794



株式会社レックス

本社 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-3-9
プレミアム長堀ビル6階
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328

<http://re-cs.co.jp>

ました。
本紙の後半には、各社ごとにページを設け、環境課題に対するそれぞれの取り組みを紹介しています。グループ企業情報ページに関しては、グループ会社ごとに構成から原稿作成まで行うことで、各特徴がより表現された内容になりました。統一感に欠けた印象を感じられるかもしれませんが、一方でそれらの違いを楽しんでいただければと思います。
ご高覧のうえ、当社グループのCSR活動をご理解いただければ幸いです。そして、ぜひご一読いただいた際には、忌憚のないご意見・感想をお聞かせいただきたいと思います。

- 参考ガイドライン/GRI「サステナビリティレポーティングガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」

本報告書に関するお問い合わせ先
リマテックホールディングス株式会社
〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1 report@rematec.co.jp